「アリダンSV-P工法」
施工仕様書

2021 年 1 月 19 日

発 行 ： フクビ化学工業株式会社

改定履歴

改定日	改定箇所	改定内容
2006 年 5 月	初版	
2020 年 4 月 17 日	木部処理について(P3)	・保証条件と木部処理に関する内容 追記
	使用部材(P4)	・アリダン V シート BK、参考部材 追記
	取り扱い上の注意(P6)	・アリダンコーキングに関する内容 追記
	ベタ基礎仕様の場合(P9～28)	・ベタ基礎仕様に関する内容 追記
2020 年 4 月 22 日	配管周り・水抜き孔部の防蟻施工(P17)	・縦配管のアリダンコーキング塗布 削除
2021 年 1 月 19 日	防蟻処理必要部位例 （ベタ基礎仕様の場合）（P10） 玄関土間・ポーチ土間の防蟻施工 （P20～27）	・基礎際に使用する部材 修正 アリダンコーキング SH1500 ⇒ アリダンコーキング SH1500（アリダン A 剤ホワイトⅡW）

アリダン SV-P 工法は、建物の耐久性向上の為に防蟻・防湿の両面にわたり、建物を保護する工法です。かつ、万が一の時の為に、長年にわたり保証するもので、標準施工書に基づく施工が必要です。施工される方は、施工仕様書をよくご理解頂いた上で施工してください
※「アリダン SV-P 工法」は、（公社）日本しろあり対策協会認定の「アリダン SV 工法Ⅱ」と同等の土壌表面シート敷設工法です。

目 次

■防蟻処理について

●一般事項 …3
●使用部材 …4
●必要工具・材料類 …5
●取り扱い上の注意 …5
●フローチャート …7
●施工に際して注意 …8
●建物施工業者への注意 …8

■アリダン SV－P 工法について

◆ベタ基礎仕様の場合

●納まり概要 …9
●防蟻処理必要部位例 …10
●基本施工要領
① アリダン V シートの敷設
1．施工面の整備 …11
2．アリダン V シートの敷設 …11
3．アリダン V シートの敷設（配管部） …13
4．捨てコンクリート、配筋の施工 …14
5．コンクリート打設（ベタ基礎） …14
◇アリダン V シートの補修方法 …15
◇雨で水がたまった場合の処理方法 …15
② アリダンコーキングの塗布
1．施工箇所のノロ、金具の撤去 …16
2．アリダンコーキング塗布 …16
◇配管周り・水抜き孔部の防蟻施工 …17
◇テラス・犬走り・勝手口など外周地盤（GL）より高くする箇所の防蟻施工 …17
◇清掃 …17
◇玄関部打設方法別フローチャート …18

◆布基礎仕様の場合

●納まり概要 …29
●防蟻処理必要部位例 …30
●基本施工要領
1．布基礎際の溝掘り …31
2．布基礎際の盛土ならし …31
3．アリダン V シートの敷設 …32
4．布基礎際溝への砂入れ …33
5．アリダン A 剤ホワイトⅡW の注入 …33
◇アリダン V シートの敷設（人通口） …34
◇アリダン V シートの敷設（配管部） …35
◇後配管工事 …36
◇給水・給湯配管の処理 …37
◇ユニットバス部以外の浴室の処理 …37
◇玄関、勝手口の土間コンクリート部の施工 …38
◇アリダン V シートの補修方法 …39
◇雨で水が溜まった場合の処理方法 …39
◇清掃 …39

◆土間コン仕様の場合

●納まり概要 …40
●防蟻処理必要部位例 …41
●基本施工要領
1．布基礎際の溝掘り～アリダン A 剤ホワイトⅡW の注入 …42
2．土間コンクリートの打設 …42
◇アリダン V シートの敷設（配管部） …42
◇給水・給湯配管の処理 …43
◇ユニットバス部以外の浴室の処理 …44
◇玄関、勝手口の土間コンクリート部の施工 …45
◇アリダン V シートの補修方法 …46
◇雨で水が溜まった場合の処理方法 …46
◇配管ピット部のアリダン V シート敷設、およびアリダン A 剤ホワイトⅡW の注入 …47
◇清掃 …47

■木部の防腐・防蟻処理について

●木部の防腐・防蟻処理の施工概要 …48
●処理方法 …48

■防腐・防蟻処理について

●一般事項

1. この施工仕様書は、新築現場におけるシロアリ防蟻工事について定めます。ただし、沖縄地域及び離島は除きます。
   対象とするシロアリの種類は、ヤマトシロアリ・イエシロアリです。
2. 地面に講じる防蟻・防腐処理は、アリダン SV-P 工法で行います。
3. 木部処理は、（公社）日本しろあり対策協会認定薬剤または（公社）日本木材保存協会認定薬剤を使用します。
4. 防蟻工事を行うときは、作業に従事する者の健康管理並びに、作業現場での薬剤・電気・火気・転落・落下物等による事故防止に努めてください。
5. 防蟻工事は、（公社）日本しろあり対策強化の認定する正会員の資格を持つ防蟻業者で、同協会の認定する防除士の指導のものに施工します。

アリダン SV-P 工法と「外壁の軸組」及び「外壁の木質系下地」の木部処理について

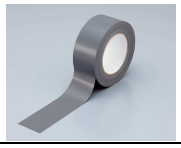
●アリダン SV-P 工法の保証条件として、品確法（劣化対策等級２以上）もしくは、住宅金融支援機構（フラット３５融資以上）の条件を満たす事が必要です。
※品確法（劣化対策等級１レベル）では、当該工法の保証条件を満たしませんので、ご注意下さい。

●「外壁の軸組」及び「外壁の木質系下地」の木部処理は、品確法（劣化対策等級２）ならびに住宅金融支援機構（フラット３５融資）においては、下記に示すように必須要求事項ではありません。
従って、当該保証条件についても、「外壁の軸組」及び「外壁の木質系下地」の木部処理は必須ではありません。
※品確法（劣化対策等級３）及び住宅金融支援機構（フラット３５Ｓ）を取得する場合においては、木部処理が必須となります。
※現場で木部処理（木部の防腐・防蟻処理）を行う場合は、P48 の内容を参照ください。

■品確法（等級 2）および住宅金融支援機構（フラット 35 融資）要件

処理箇所		措置
土台	土台 [右のイ、ロのいずれかの措置]	イ）ひのき、ひば、米ひのき、米ひば、栗、けやき、米杉、台湾ひのき、こうやまき、さわら、ねずこ、いちい、かや、ウエスタンレッドシーダー、インセンスシーダ又はセンペルセコイヤ ロ）保存処理区分K3相当以上の防腐・防蟻処理材
	土台に接する外壁の下端には水切りを設ける。	
土台以外の木部	外壁の軸組 (地面からの高さ1m以内) ※土台を除く ※室内側に露出した部分を除く [右のイ～へのいずれかの措置]	イ）ひのき、ひば、米ひのき、米ひば、栗、けやき、杉、米杉、台湾ひのき、こうやまき、さわら ねずこ、いちい、かや、くぬぎ、みずなら、からまつ、米松（ダグラスファー）、ダブリカからまつ ウエスタンレッドシーダー、アピトン、ウエスタンラーチ、カプール、ケンパス、セランガンバツ、 タマラック、パシフィックコーストイエローシーダー、サイプレスパイン、ボンゴシ、イペ、 ジャラ、インセンスシーダ又はセンペルセコイヤ ロ）外壁内に通気層、壁体内通気可能構造 ハ）外壁材板張り、直接通気可能構造 二）軒出90cm以上、柱が外気に接する構造（真壁構造） ホ）断面寸法120㎜×120㎜以上 へ）（１）工場で処理（加圧注入処理など） （２）現場でアリダン乳剤Neoなどの防腐・防蟻薬剤を塗布、吹付け、浸漬する。
	外壁の木質系下地 (地面からの高さ1m以内) ※室内側に露出した部分を除く [右のイ～ホのいずれかの措置]	イ）ひのき、ひば、米ひのき、米ひば、栗、けやき、杉、米杉、くぬぎ、みずなら、からまつ 米松（ダグラスファー）、ダフリ化からまつ、アピトン、カプール、ケンパス、セランガンバツ ロ）外壁内に通気層、壁体内通気可能構造 ハ）外壁材板張り、直接通気可能構造 二）軒出90cm以上、柱が外気に接する構造（真壁構造） ホ）（１）工場で処理（加圧注入処理など） （２）現場でアリダン乳剤Neoなどの防腐・防蟻薬剤を塗布、吹付け、浸漬する。

●使用部材

部材名	部材規格	
［防蟻シート］ アリダン V シート		0.18 ㎜厚×幅 1,000mm×65m 巻 0.18 ㎜厚×幅 1,000mm×20m 巻
［防蟻シート］ アリダン V シート BK		0.18 ㎜厚×幅 2,000mm×40m 巻
［ジョイントテープ］ アリダン GA ジョイント V		0.14 ㎜厚×幅 50 ㎜×50 巻 入数：30 巻
［防蟻薬剤］ アリダンコーキング SH1500		1,500g／本 入数：10 本
［防蟻薬剤］ アリダンコーキング 3SH600		600g／本 入数：10 本
［防蟻液剤］ アリダン A 剤ホワイトⅡW		10L／箱 入数：1 箱

参考部材

部材名	部材規格	
［木部防腐・防蟻処理材］ アリダン乳剤 Neo		15L（オレンジ）／缶 入数：1 缶／箱
		4L（オレンジ）／缶 入数：4 缶／箱
		15L（クリア）／缶 入数：1 缶／箱
		4L（クリア）／缶 入数：4 缶／箱

●必要工具・材料類

【ベタ基礎・布基礎・土間コン仕様の全てで使用する物】

・作業衣、マスク、作業用手袋

・釘（N75 以上）

・カッター、ハサミ

・ゴミ袋（端材など）

【ベタ基礎仕様のみで必要な物】

・金づち、ペンチ（型枠固定金具の取り除き）

・ノミ（ノロの取り除き）

・ほうき、チリトリ（ペースト施工部のコンクリート面の掃除）

・発泡材、布切れ（アリダンコーキングを隙間へ施工する時に使用）

【布基礎・土間コン仕様で必要な物】

・溝掘り工具、砂押え工具

・ジョウロ（アリダン A 剤ホワイトⅡW 土壌面散布用）

・川砂（できるだけ粗目の砂）

●取り扱い上の注意

1．アリダン V シート、アリダン V シート BK

＜施工時について＞

・アリダン V シート/アリダン V シート BK は、通常の作業範囲では破れませんが、たばこや重量物を載せたりして破損しないでください。

＜保管・廃棄処理について＞

・施工時にアリダン V シート/アリダン V シート BK が残った時は必ず持ち帰ってください。

・廃棄処理するものについては産業廃棄物として、国、都道府県知事の許可を受けた専門の業者に委託して処理してください。

・保管は直射日光を避けた涼しい場所（5～35℃）で、幼児の届かないところで行なってください。

2．アリダン A 剤ホワイトⅡW

＜安全面について＞

・手足などに付いたときは早めに石鹸水などで洗い流してください。

・間違って口に入った場合はすぐに吐き出し、水で口の中を十分すすいでください。

＜施工時について＞

・雨天時には施工しないでください。

・使用前に容器を 4～5 回逆さまに良く振ってから使用してください。

・必ず施工面を清掃してください。

・施工面が濡れている場合は、乾燥してから施工してください。

・施工忘れ、施工隙間、施工ムラがないにようにしてください。

・本剤が乾燥硬化するまでは、雨にあたらないようにしてください。

・施工後、乾燥硬化には時間がかかります。（約 12 時間）

<保管・廃棄処理について>

・施工時に薬液が残った時は蓋を密封し持ち帰って、次の現場に使用してください。
（一旦、開封した薬液は 3 か月以内に使用してください）

・開封前の使用期限は製造日から 1 年となります。

・余った内容物／空容器などは産業廃棄物として、国、都道府県知事の許可を受けた専門の業者に委託して処理してください。

・保管は直射日光を避けた涼しい場所（5～35℃）で、幼児の届かないところで行なってください。

3. アリダンコーキング SH1500、アリダンコーキング 3SH600

<安全面について>

・手足などに付いたときは早めに石鹸水などで洗い流してください。

・間違って口に入った場合はすぐに吐き出し、水で口の中を十分すすいでください。

<施工時について>

・必ず施工面を清掃してください。

・塗布面のゴミ、埃を刷毛（ブラシ）等で取り除いてください。

・塗布面が濡れている場合は、乾燥してから施工してください。

・玄関内土間・玄関ポーチ部への施工の際は、建て方後に施工を行なってください。

・塗布忘れ、施工隙間、施工ムラがないようにしてください。

・塗布時、塗布後に気泡を発見した場合、気泡をつぶし、アリダンコーキングを再塗布してください。

・容器内の本剤は、最後まで絞り出して使い切ってください。

・アリダンコーキングの乾燥には時間がかかります。踏み荒らさないようにしてください。また万が一踏み荒らした場合は再度塗布補修してください。

・施工後、本剤が乾燥硬化するまでは、雨にあたらないようにしてください。

<保管・廃棄処理について>

・コーキング剤が残った場合は空気を抜いて中栓をし、本剤を乾燥硬化させないようにして 3 か月以内に使用してください。

・使用期限は密閉状態で製造日から 1 年となります。

・余った内容物／空容器などは産業廃棄物として、国、都道府県知事の許可を受けた専門の業者に委託して処理してください。

・防蟻材料の性質、使用方法、注意事項等を熟知し、安全で確実な施工をしてください。

・保管は直射日光を避けた涼しい場所（5～35℃）で、幼児の届かないところで行なってください。

●フローチャート（太字部分が防蟻工事箇所）

■ベタ基礎仕様の場合

1. 地業
2. 配管工事
3. **アリダン SV-P 工法施工**
   - **・アリダン V シート/アリダン V シート BK 敷設　のみ**
4. 基礎工事
5. **配管周りアリダンコーキング処理、木部処理**
   - **・立ち上がり配管、横抜き配管、2 重さや配管、水抜き穴**
   - **・木部処理（大引）**
5. 軸組工事
6. 床組工事（床合板）
7. **玄関/勝手口土間アリダンコーキング処理、木部処理**
   - **・玄関/勝手口内土間、玄関/勝手口周り**
   - **・木部処理（柱・間柱・筋交い・構造用合板）**

■布基礎仕様の場合

1. 布基礎工事
2. 配管工事
3. **アリダン SV-P 工法施工、木部処理**
   - **・アリダン V シート/アリダン V シート敷設**
   - **・アリダン A 剤ホワイト処理**
   - **・立ち上がり配管、配管ピット部処理**
   - **・木部処理（大引）**
4. 軸組工事
5. 床組工事（床合板）
6. **木部処理**
   - **・木部処理（柱・間柱・筋交い・構造用合板）**

■土間コン仕様の場合

1. 布基礎工事
2. 配管工事
3. **アリダン SV-P 工法施工、木部処理**
   - **・アリダン V シート/アリダン V シート敷設**
   - **・アリダン A 剤ホワイト処理**
   - **・立ち上がり配管**
   - **・木部処理（大引）**
4. 土間コンクリート打設
5. **配管ピット部処理、木部処理**
   - **・配管ピット部処理**
   - **・木部処理（大引）**
6. 軸組工事
7. 床組工事（床合板）
8. **木部処理**
   - **・木部処理（柱・間柱・筋交い・構造用合板）**

●施工に際しての注意

1. アリダン SV-P 工法は配管設置後、床貼り前に行います。
2. 作業時は作業衣、作業用手袋を着用してください。
3. 作業中は飲食、喫煙は絶対にしないでください。
4. 施工前に降雨等で当該対象部分が未乾燥の場合は施工を注し、乾燥してから行います。
   （例：地盤面の水たまり、基礎が濡れている場合）
5. 施工中で、降雨が予想される場合は、施工を中止し施工面を養生します。ただし、現場にて加盟店工務担当者との相談の上決めてください。
6. 施工後 12 時間以内に降雨があった場合は、当該施工業者は現場状況確認後、アリダン A 剤ホワイトⅡW が流れている場合は、乾燥後再施工（アリダン A 剤ホワイトⅡW の流し込み）をします。また、施工後降雨が予想される場合は、施工面を養生します。
7. 土間コン仕様にて、コンクリートを打設する際、アリダン A 剤ホワイトⅡW が完全硬化（施工後約 12 時間）していることを確認してから打設を行います。
8. アリダン SV-P 工法施工後はなるべく当該施工部を踏み荒らしたり、物を載せたりしないでください。
9. 工事完了に際しては、施工完了後、アリダン SV-P 工法の写真を撮り、Web 画面より申請してください。
10. 床断熱材（押出法ポリエチレンフォーム）は、薬剤の種類により解ける場合があります。一階床上の木部処理は必ず一階床合板敷後とし、薬剤の飛散および床下への流れ込みには注意します。
11. その他

イ）防蟻工事施工（土壌処理及び木部処理）完了物件には所定の「シロアリ予防施工済」ステッカー等を現場に貼付、その表示を行います。

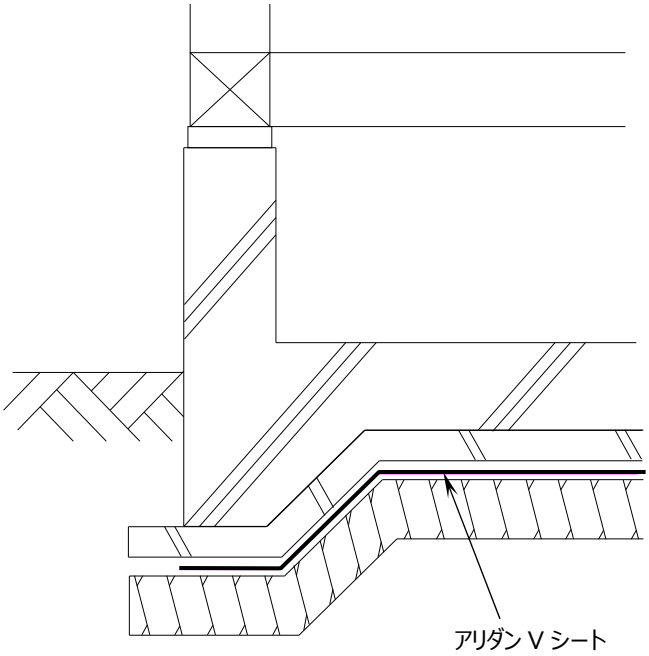
ロ）工事完了に際しては、施工完了後、アリダン SV-P 工法及び、屋内木部処理中の写真を各 1 枚撮り、Web 画面より申請してください。

●建物施工業者への注意

1. アリダン SV-P 工法でベタ基礎の場合、コンクリート打設前に当該防蟻業者へ防蟻シートを指示する事。特に木部処理の指示に際しては、水廻り部分の位置を図面等で正確に防蟻業者に指示します。
2. 防蟻工事に先だち床下に存在する木片、カンナ屑、型枠等の残廃材及び切株、雑草等を完全に除去しておかなければなりません。（外部型枠剤、玄関枠の振止め材など）
3. 薬剤処理済の木材は原則として加工しないようにします。やむをえず加工を施した場合は必要に応じ改めてその部分に木部処理剤を吹きつけ又は塗布します。
4. 防蟻工事施工中及び施工後 1 時間以内は現場に立ち入らないでください。万が一、皮膚に処理剤が直接触れた場合は、石鹸と水で十分に洗浄してください。ただし、処理乾燥後は特に注意を要しません。

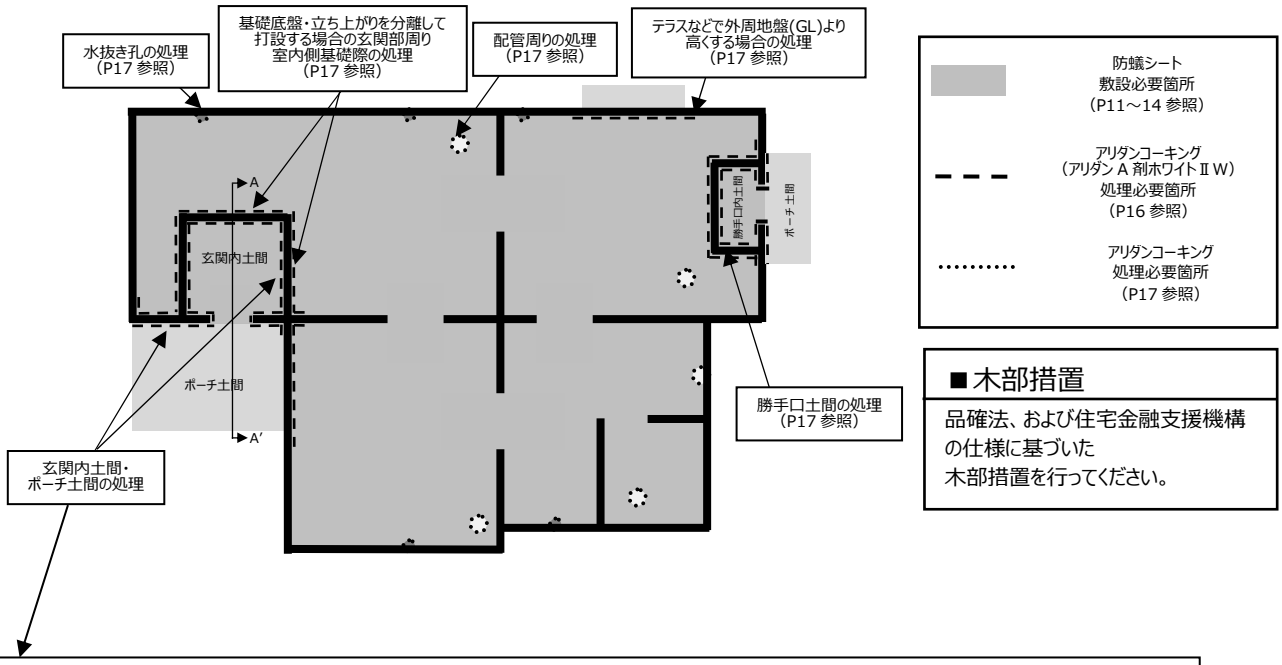
◆ベタ基礎仕様の場合

●納まり概要



アリダン V シートは、ベタ基礎打設前に割栗石や
目つぶし砂利敷き込み、十分突き固めた後敷設します。

●防蟻処理必要部位例（ベタ基礎仕様の場合）



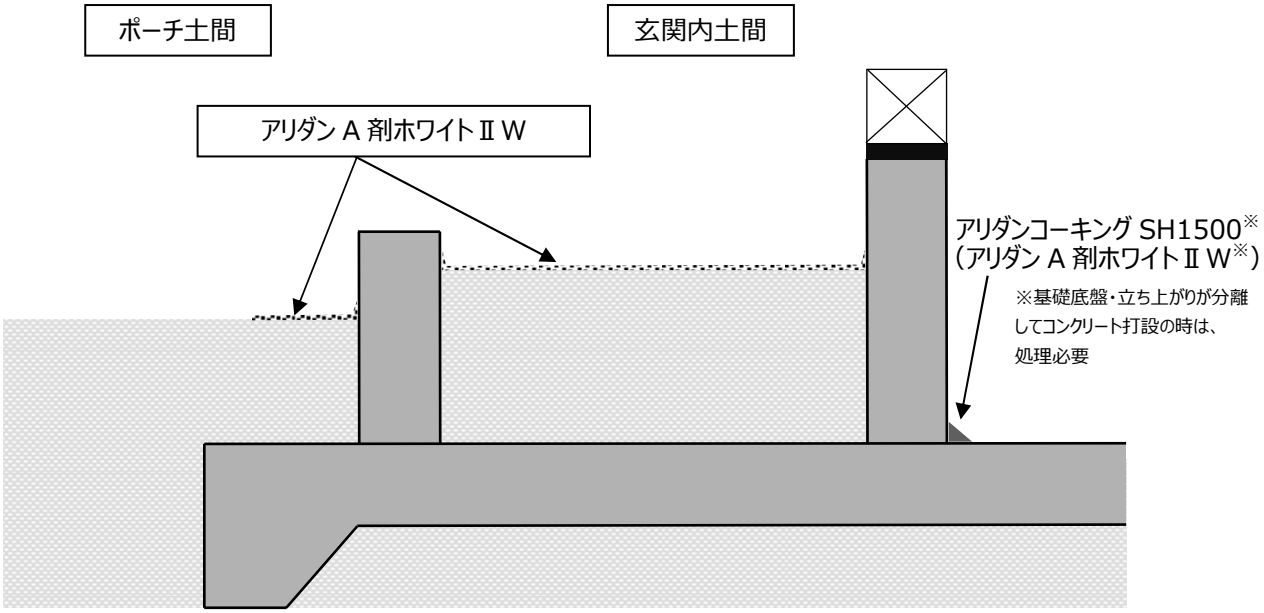
■木部措置

品確法、および住宅金融支援機構
の仕様に基づいた
木部措置を行ってください。

※玄関内土間・ポーチ土間の処理については、P16、17、18～27 の中から
該当する基礎形態を確認の上、必要箇所にコーキングを施工して下さい。

※下記ページの基礎形態の場合には、下図のように「玄関土間」を打設する前に施工可能な施工方法があります。
詳細な施工方法については、P28 を参照下さい。

・「P21 A-3-1」、「P22 A-3-2」、「P22 A-4a」、「P25 B-3-1」、「P26 B-3-2」、「P26 B-4a」 に記載されている基礎形態が対象です。



A-A′ 断面図

●基本施工要領（ベタ基礎仕様の場合）

①アリダン V シートの敷設

1．施工面の整備

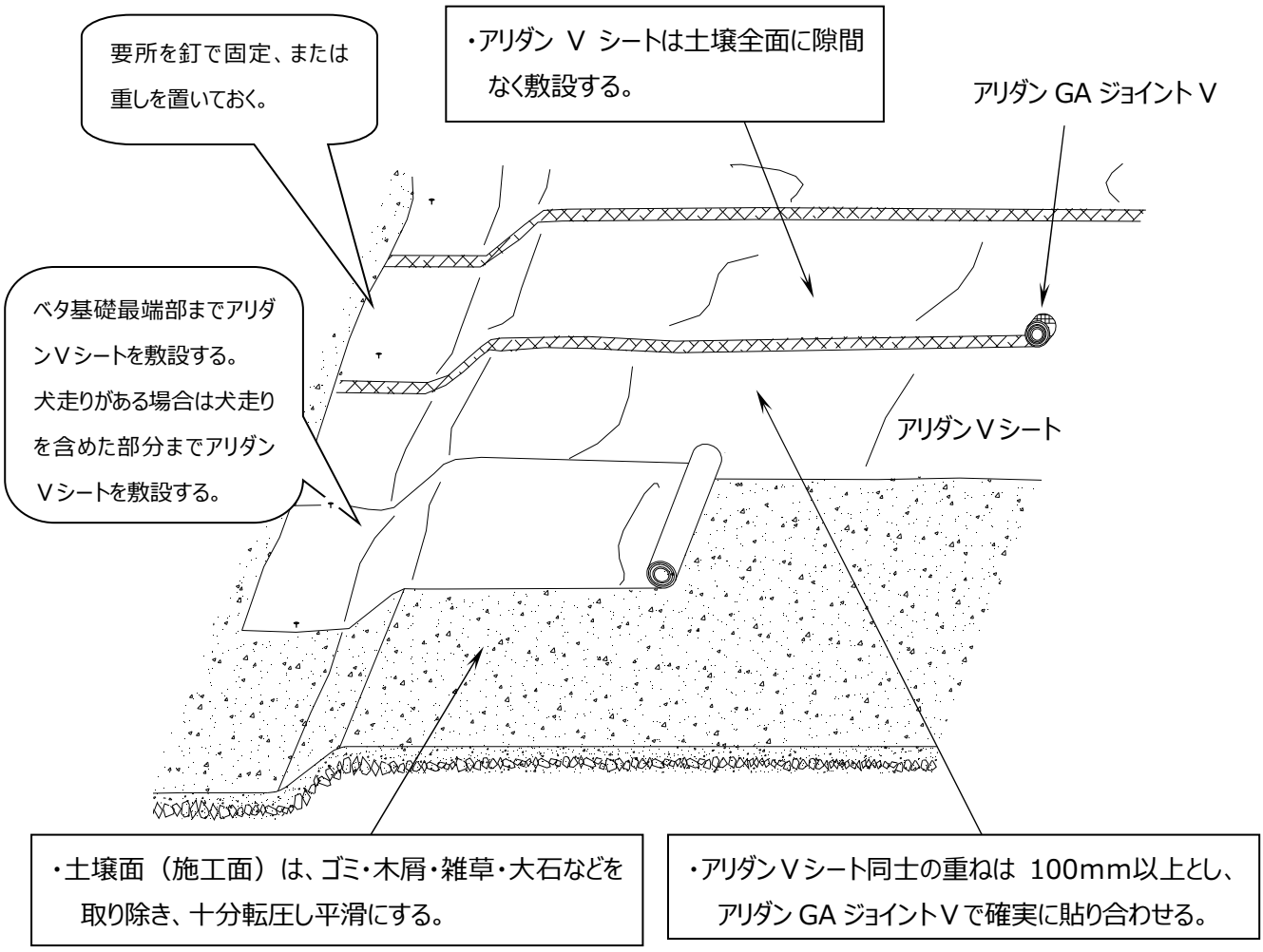
・施工面のゴミ、木屑、雑草、大石などを取り除く。

・割栗石や目つぶし砂利を敷き込み、十分突き固め平滑にする

2．アリダン V シートの敷設

・土壌面全面に隙間のないようアリダン V シートを敷設する。

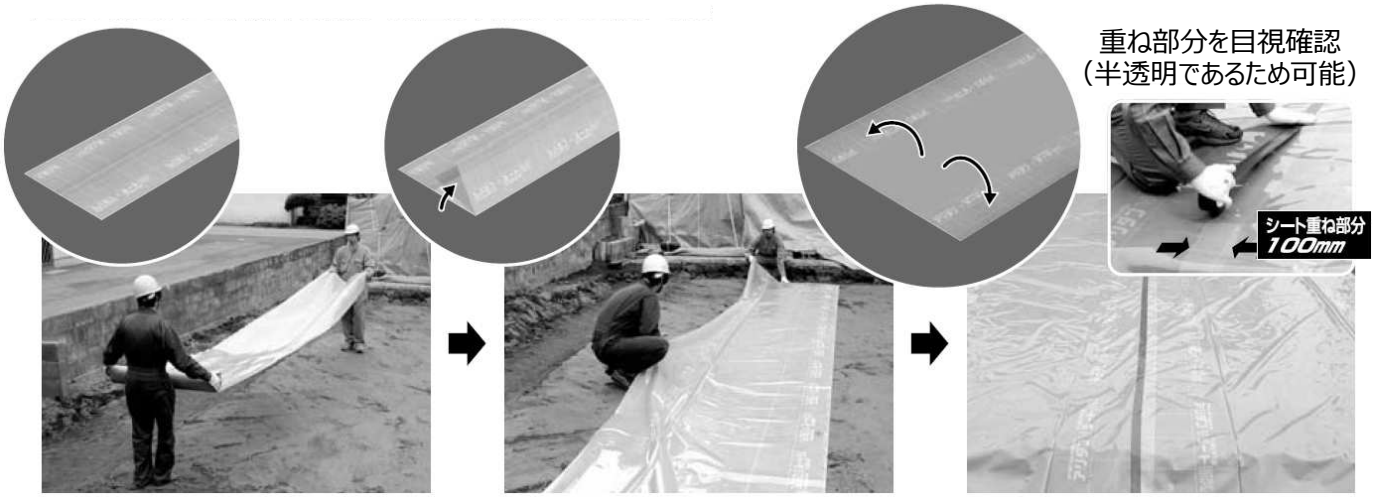
・アリダン V シートのジョイントは約 100mm 重ね、アリダン GA ジョイント V で貼り合わせる。



※アリダン V シート BK の敷設方法

・アリダン V シート BK の場合、下記の手順に沿って施工をする。

※アリダン V シート BK は、2m 巾の広巾シートだが、梱包時は 1m 巾に折りたたんでロール巻状になっている。



一人がロール巻を両手で持ち、もう一人がシートを巻き出す。

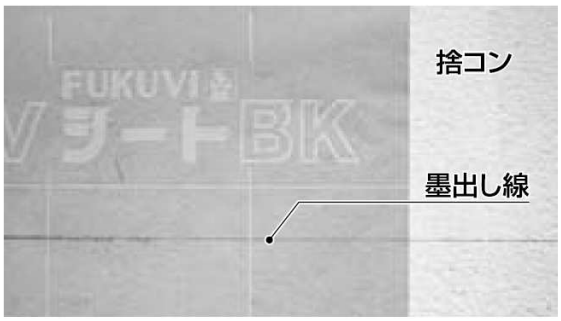
必要寸法でシートをカット後、シートを左右に開き（観音開き）、敷設する。

隣のシートも同様に敷設し、シートジョイントラインを目安に重ね、アリダン GA ジョイント V を貼り付ける。

※シート施工のタイミングで既に捨てコンクリート打設、墨出し線が打たれていてもアリダン V シート BK であれば、半透明であるため、墨出し線が透けて見えます。

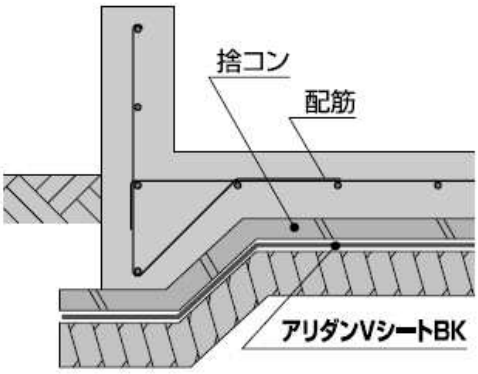
※アリダン V シート BK であれば、捨てコンクリート打設前でも後でも施工が可能です。

砕石下地が透けて見えます。

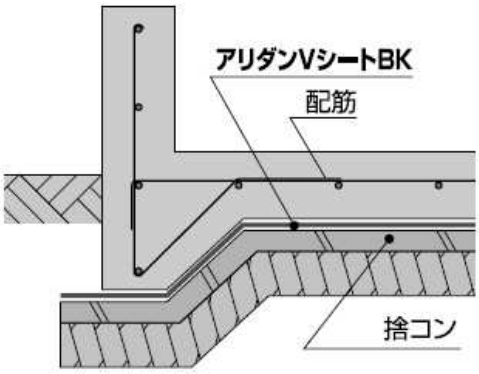


墨出し線が透けて見えます。

● 捨てコンの下にシート



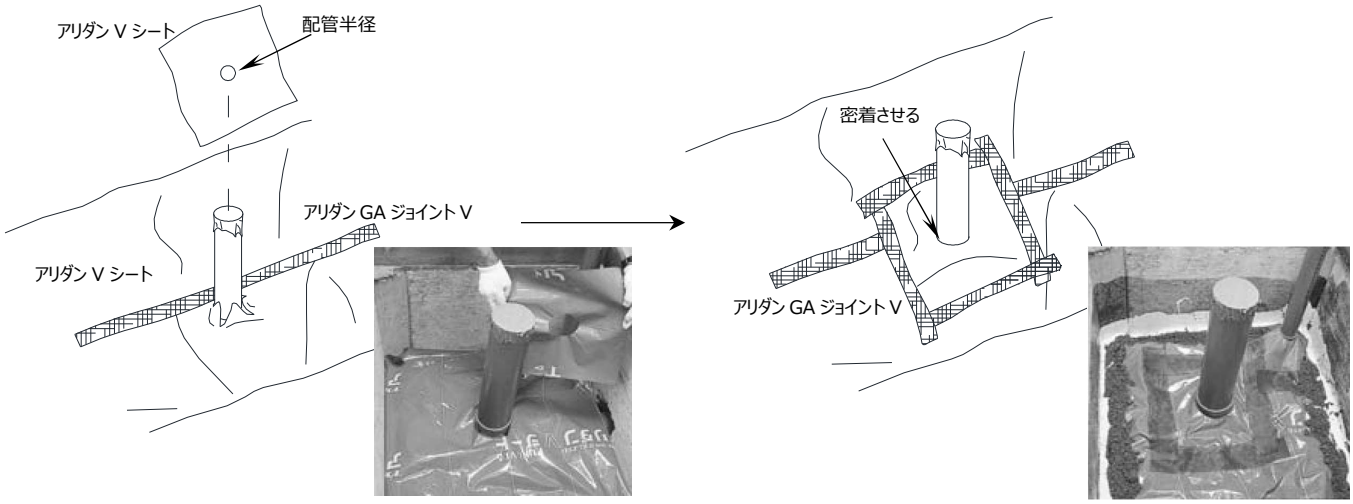
● 捨てコンの上にシート



◇アリダン V シートの敷設（配管部）

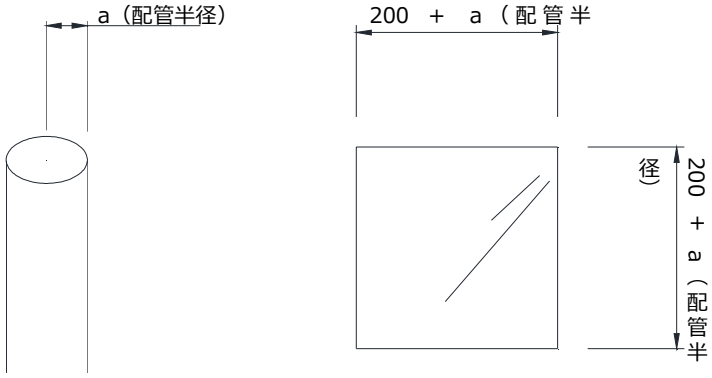
・配管部分はアリダン V シートに切り込みを入れ敷設した後、アリダン V シートのカット品を作製し、２重敷設をする。

・重ねるシートは配管径の１/2 サイズの穴をあけ、アリダン V シートを伸ばしながら納める。配管に密着させ、根元まで押し落とし、周囲をアリダン GA ジョイント V で貼付け固定する。

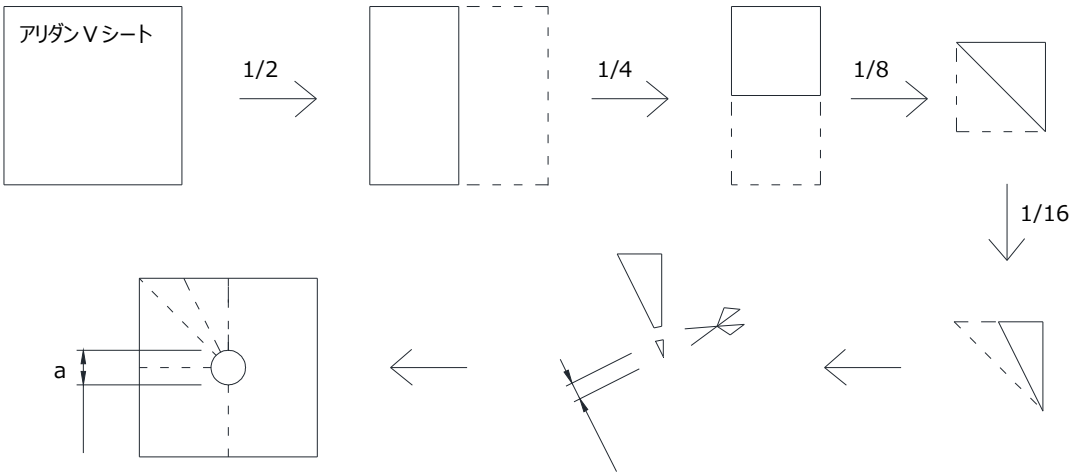


配管部処理用アリダン V シートカット品の作成

ⅰ 処理する配管の半径＋200 ㎜角にアリダン V シートをカットする。



ⅱ カットしたアリダン V シートを 1/16 に折り、配管半径の 1/2 の長さを切り落とす。



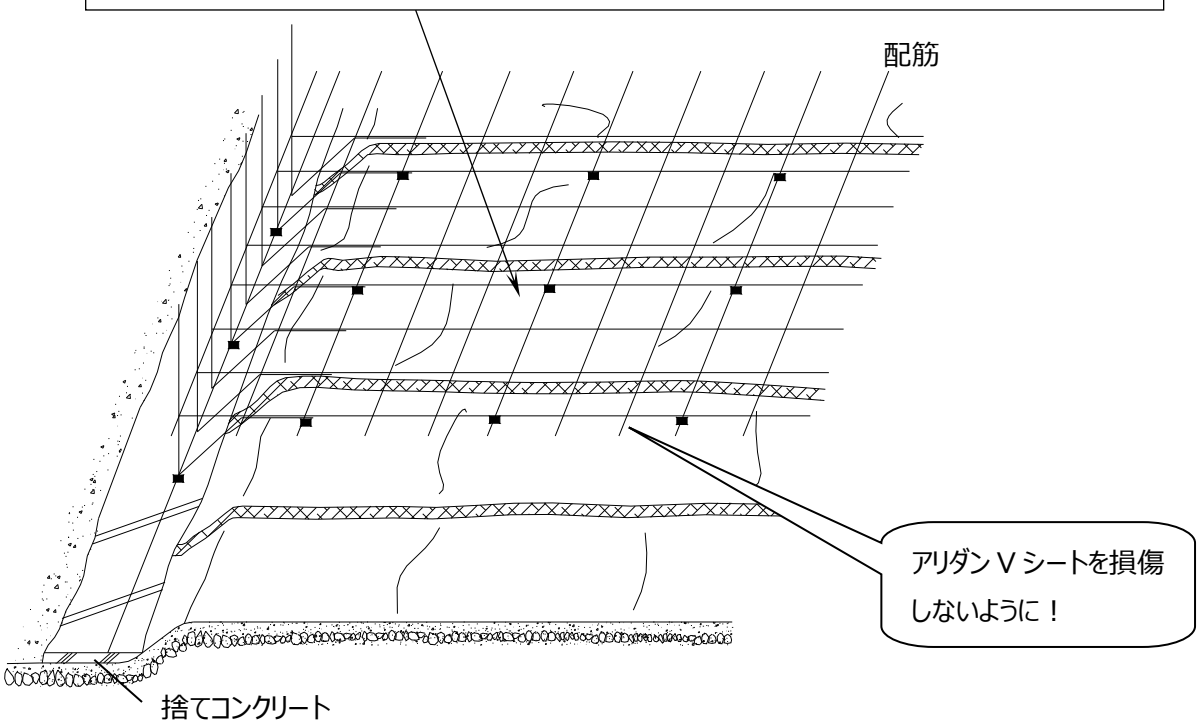
４．捨てコンクリート、配筋の施工

・捨てコンクリートを外周部に打設する。

・配筋の施工をする。

・アリダン Ｖ シートを損傷させたり、ずらしたりしないようにする。

・配筋を施工する際、アリダン Ｖ シートを損傷させたり、ずらしたりしないよう注意する。
・損傷した場合は必ず補修する。

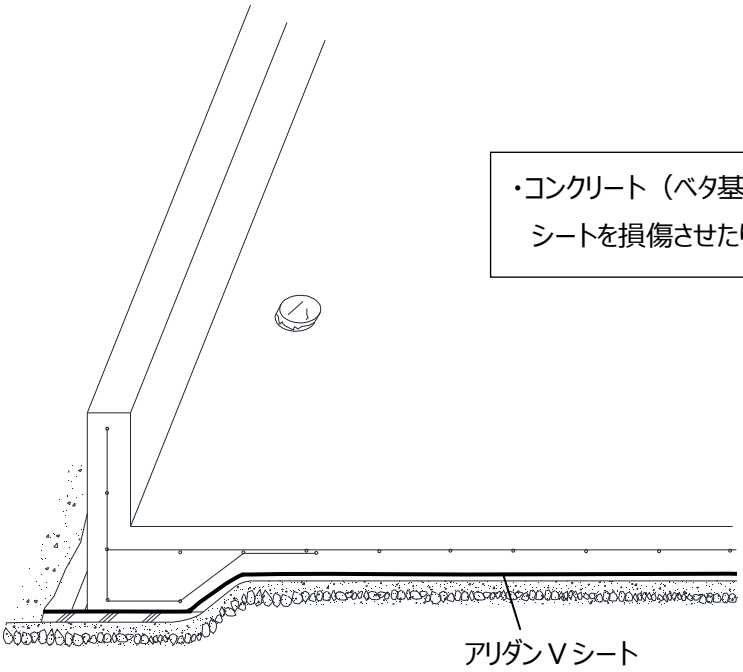


５．コンクリート打設（ベタ基礎）

・コンクリートを打設する。

・アリダン Ｖ シートを損傷させたり、ずらしたりしないようにする。

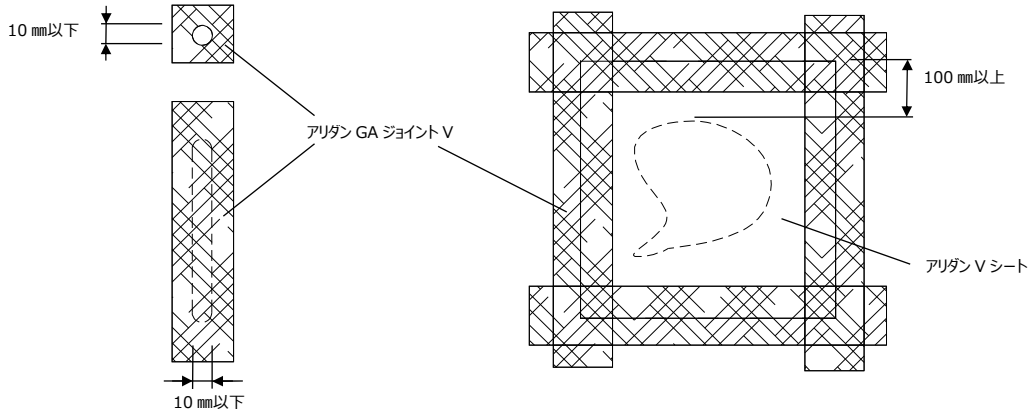
・コンクリート（ベタ基礎底盤）を打設する際、アリダン Ｖ シートを損傷させたり、ずらしたりしないよう注意する。



◇**アリダン V シートの補修方法**

・破れ・穴あきの場合、穴の大きさが 10mm 程度まではアリダン GA ジョイント V でふさいで下さい。

・穴の大きさが 10mm 以上の場合は、穴の大きさより規定の重ね代が確保できる大きさに切断した アリダン V シートを重ね、隙間が出来ないようにアリダン GA ジョイント V で貼りつけて下さい。

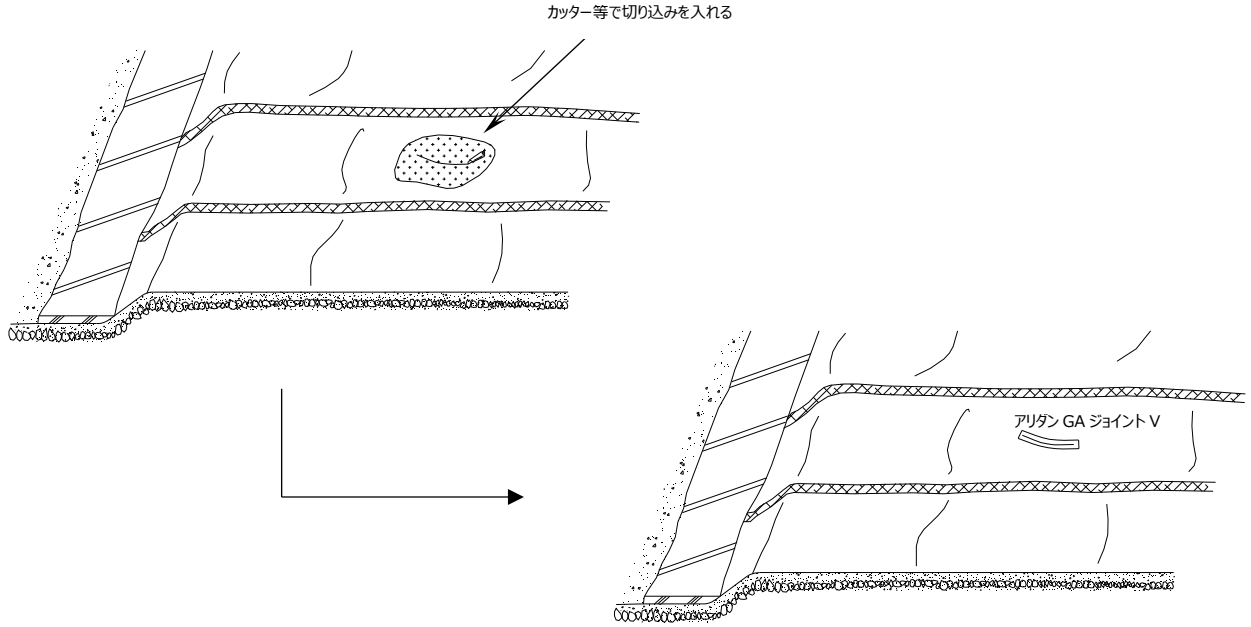


◇**雨で水がたまった場合の処理方法**

・アリダン V シートの上に水が溜まった箇所にカッター等で切り込みを入れ、水を抜く。

・水をアリダン V シートの下に抜いた後、アリダン GA ジョイント V にて切り口をふさぐ。

・アリダン GA ジョイント V を貼り忘れた箇所がないか確認し、補修終了。



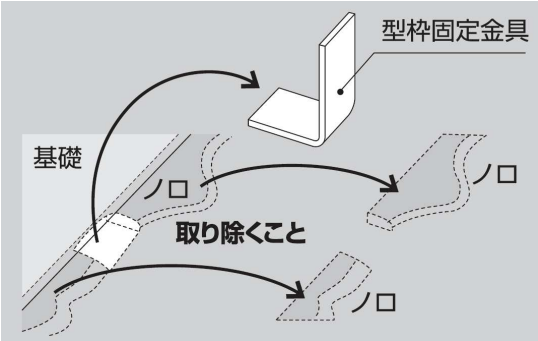
ベタ基礎打設後の施工

②アリダンコーキングの塗布

1. 施工箇所のノロ、金具の撤去

・玄関内土間、玄関部周りなどアリダンコーキングを施工する箇所は、施工しやすいように基礎際のゴミ・埃を取り除く。

・基礎際にノロ漏れや型枠固定金具があると、アリダンコーキング SH1500 がきれいに施工できないため、ノミなどで取り除く。

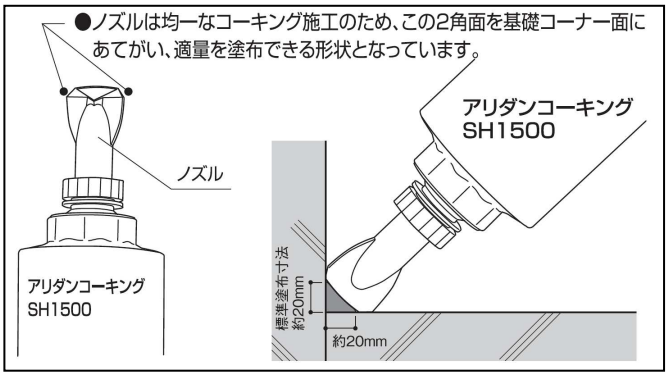


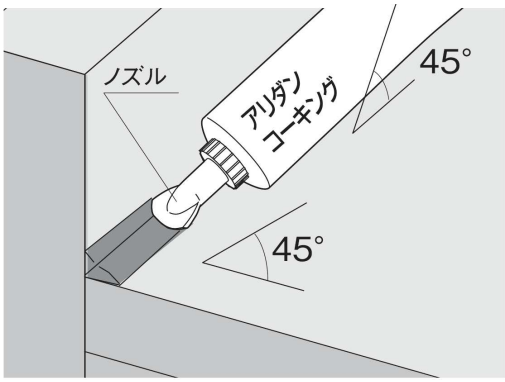
2. アリダンコーキング施工

・施工前に塗布部のゴミ、埃を取り除き、乾燥した状態で塗布する。

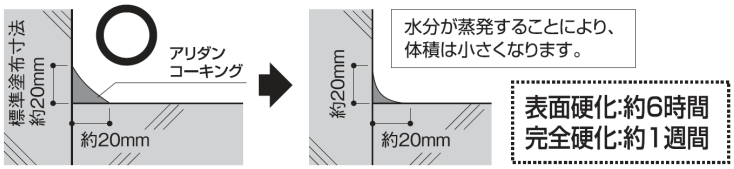
・基礎と土間コンクリートの打継部にアリダンコーキング SH1500 を塗布する。（塗布量：200g 以上／m）

・ノズルを施工面にあてがい 45°傾け、さらに進行方向に 45°傾けてチューブ（容器）を手で絞りながら、ゆっくり塗布する。



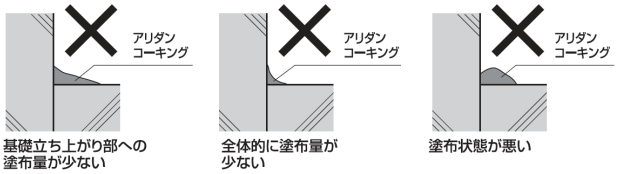


■アリダンコーキングの施工後の変化



⚠注意 アリダンコーキングの施工に際しての注意事項

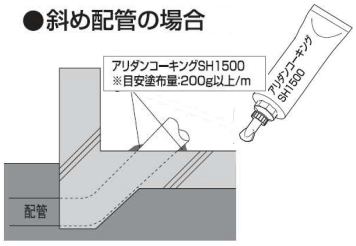
●下図のような状態にならないように隙間なく適量を塗布してください。



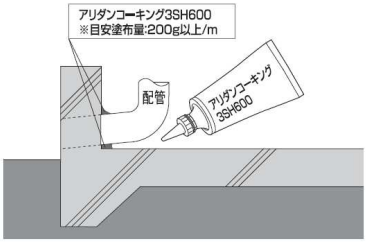
◇配管周り・水抜き孔部の防蟻施工

●配管周りの防蟻処理

●斜め配管の場合

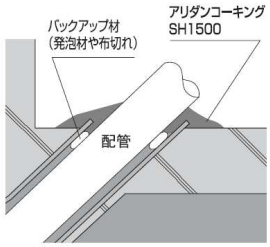


●横配管の場合

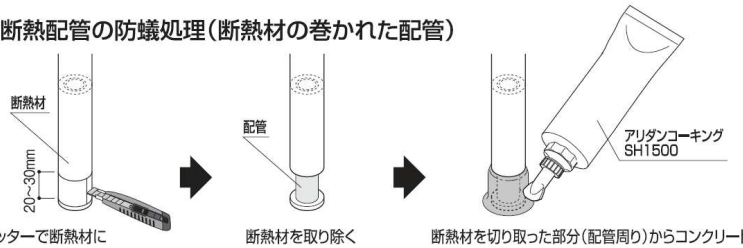


■二重配管の場合

●斜め配管で、二重配管としている場合は、配管同士のすき間にバックアップ材(発泡材や布切れ)を詰め、その上にアリダンコーキングSH1500を施工し、さらに配管周囲を隙間のないように盛り施工します。



●断熱配管の防蟻処理(断熱材の巻かれた配管)



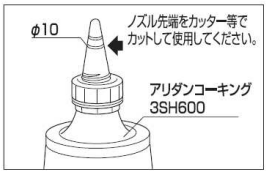
カッターで断熱材に切り込みを入れる

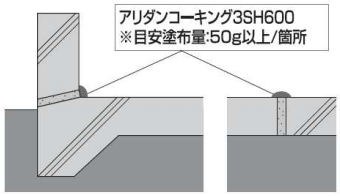
断熱材を取り除く

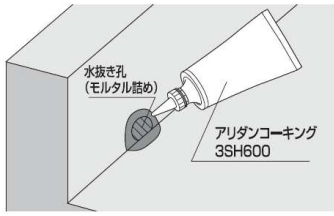
断熱材を切り取った部分(配管周り)からコンクリート面まで全面アリダンコーキングを塗布します

●水抜き孔部の防蟻処理

●水抜き孔は、モルタルもしくはバックアップ材(発泡材や布系)を詰めて、隙間のないように処理を行ってください。
●水抜き孔全体を覆うようにアリダンコーキング3SH600を塗布します。
※目安塗布量:50g以上/箇所





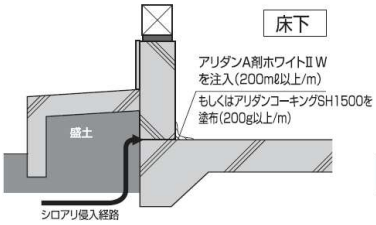


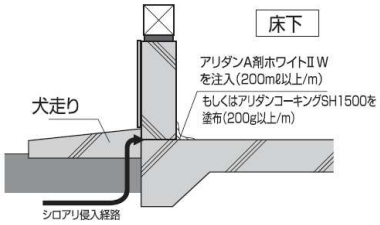
◇テラス・犬走り・勝手口など外周地盤(GL)より高くする箇所の防蟻施工

■テラス・犬走りなどで外周地盤(G.L.)より盛土する場合の防蟻処理

●基礎底盤と基礎立ち上がりを分離して打設する基礎形態において、基礎外側にテラスや踏み台等を設ける際に盛土をする場合や犬走りを設ける場合は基礎打ち継ぎ部(床下側)にアリダンA剤ホワイトⅡ W(200mℓ以上/m)もしくはアリダンコーキングSH1500(200g以上/m)を施工してください。

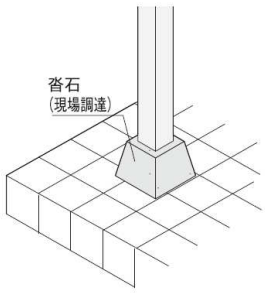
※施工要領に関しては玄関・勝手口部と同様です。
※型枠固定金具がある場合は取り除き、特に入念に処理を行ってください。
※コンクリートはみ出し部分も全体を覆うように処理を行ってください。





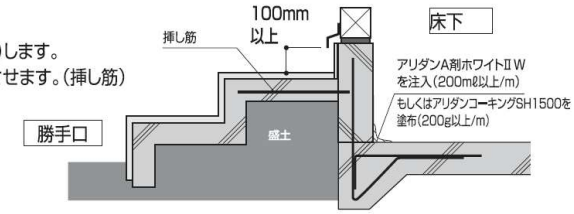
■玄関ポーチ柱について

●ポーチ柱(木部)を沓石を用いるなどして、土間に直接接しないようにしてください。
※ポーチ柱木部は、必要に応じて防腐・防蟻処理を行ってください。



■勝手口土間の納まり(推奨)

勝手口土間は以下の納まりを推奨します。
●土間(天端)は、水切よりなるべく低く(100mm以上)します。
●土間コンクリートは配筋(メッシュ)し、基礎と一体化させます。(挿し筋)



◇清掃

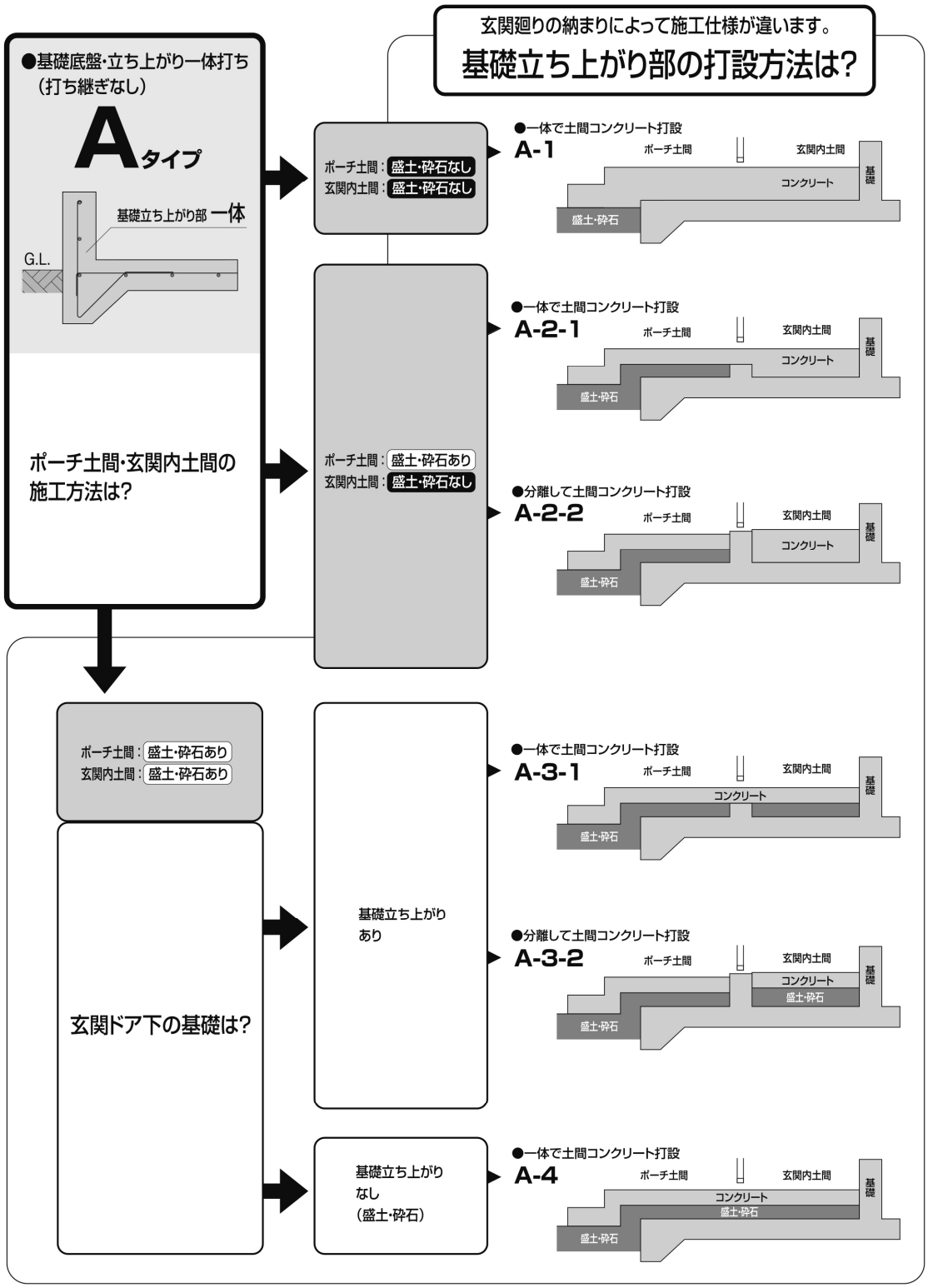
・アリダン V シート、アリダン GA ジョイント V の端切れ、アリダンコーキング、アリダン A 剤ホワイトⅡ W の容器は持ち帰り、産業廃棄物として、国、都道府県知事の許可を受けた専門の業者に委託して処理してください。

玄関土間・ポーチ土間のコンクリートを打設した後に施工を行う場合

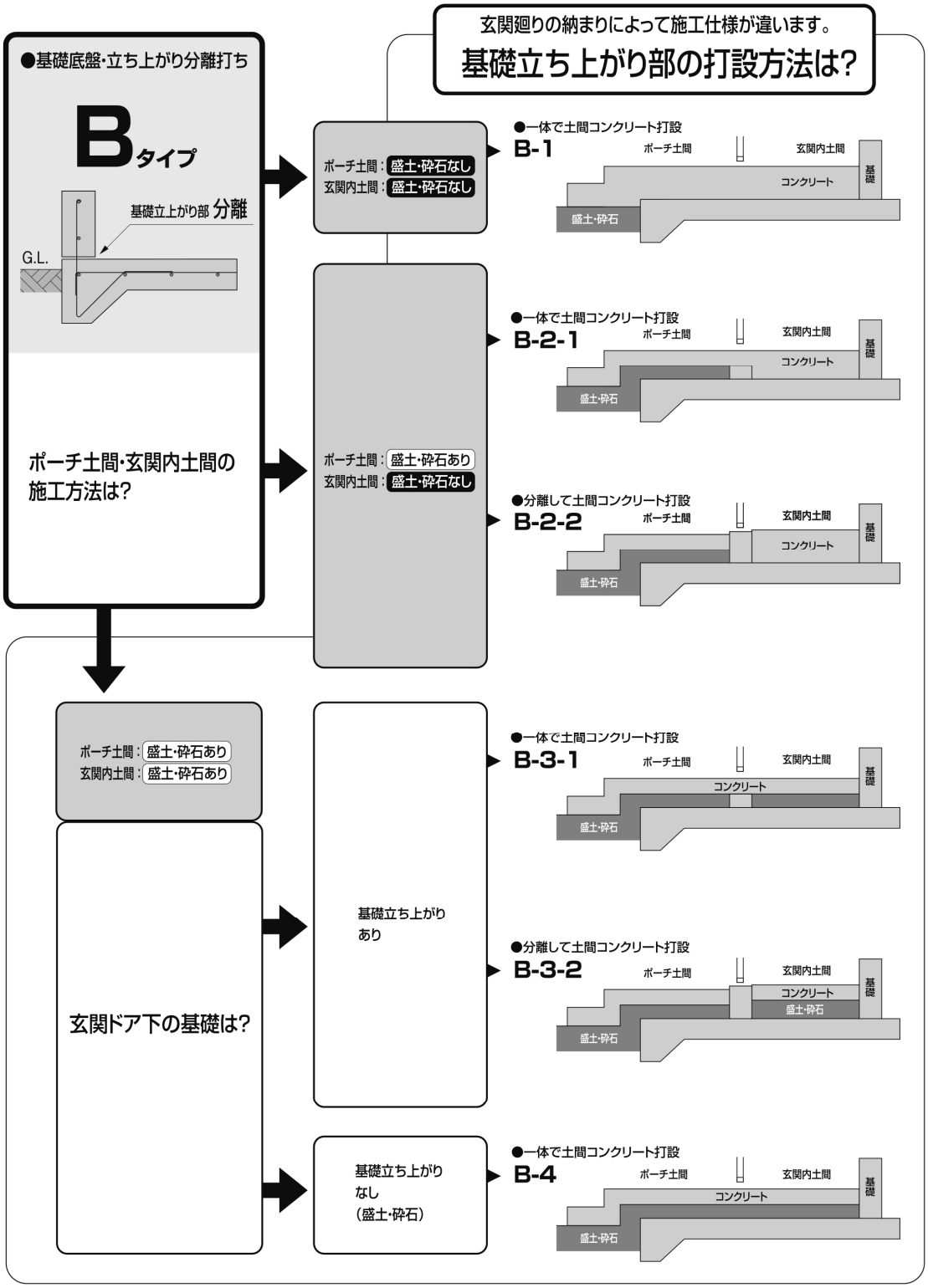
以下の打設方法から対象物件がどの方法を採用するかを確認の上、施工箇所を予め確定して下さい。

「玄関土間・コンクリート土間を打設する前に施工を行う」方法も選択可能です。（その際は、P28 参照ください。）

◇玄関部打設方法別フローチャート①

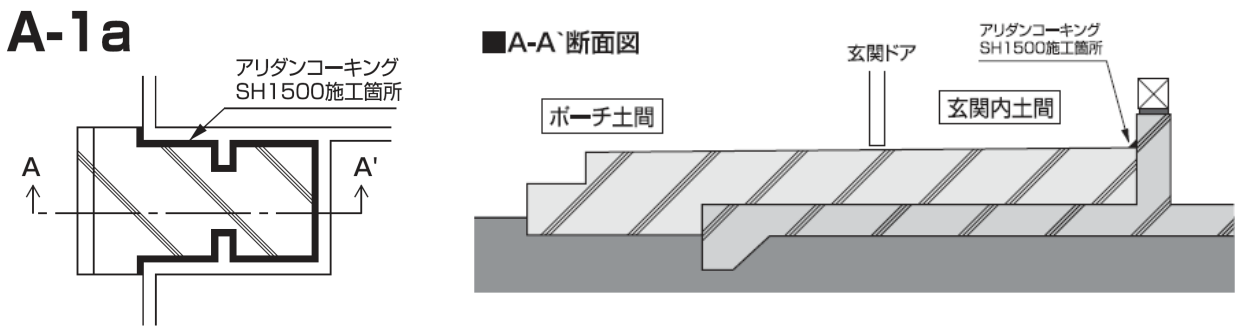


◇玄関部打設方法別フローチャート②



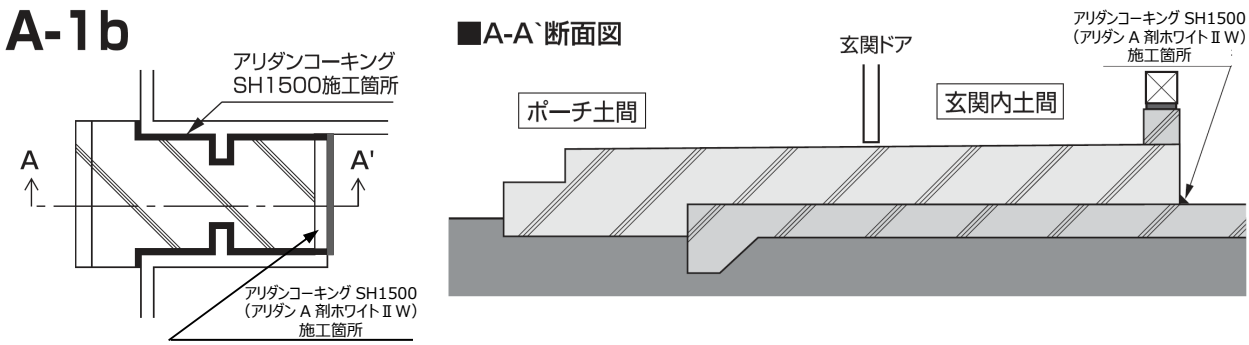
A.基礎底盤・立ち上がりを「**一体で**コンクリート打設」する場合①

A-1.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石なし)」で一体で土間コンクリートを打設する場合



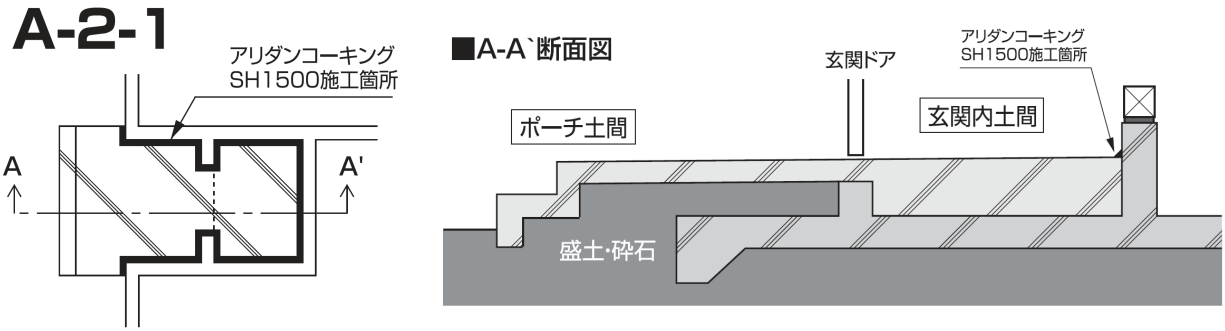
A.基礎底盤・立ち上がりを「**一体で**コンクリート打設」する場合②

A-1.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石なし)」で一体で土間コンクリートを打設する場合



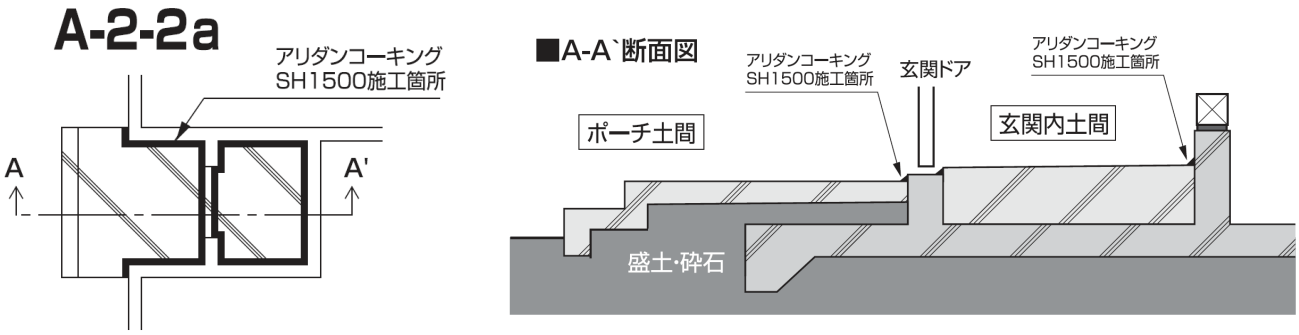
A.基礎底盤・立ち上がりを「**一体で**コンクリート打設」する場合③

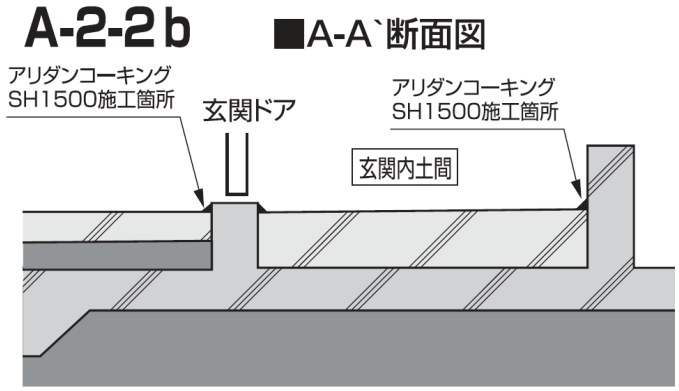
A-2-1.「ポーチ土間(盛土・砕石あり)・玄関内土間(盛土・砕石なし)」で一体で土間コンクリートを打設する場合

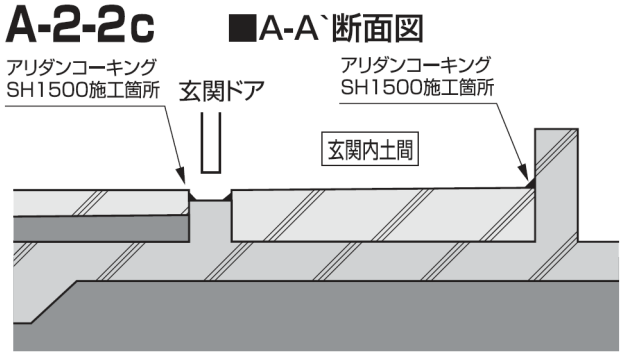


A.基礎底盤・立ち上がりを「**一体で**コンクリート打設」する場合④

A-2-2.「ポーチ土間(盛土・砕石あり)・玄関内土間(盛土・砕石なし)」で分離して土間コンクリートを打設する場合

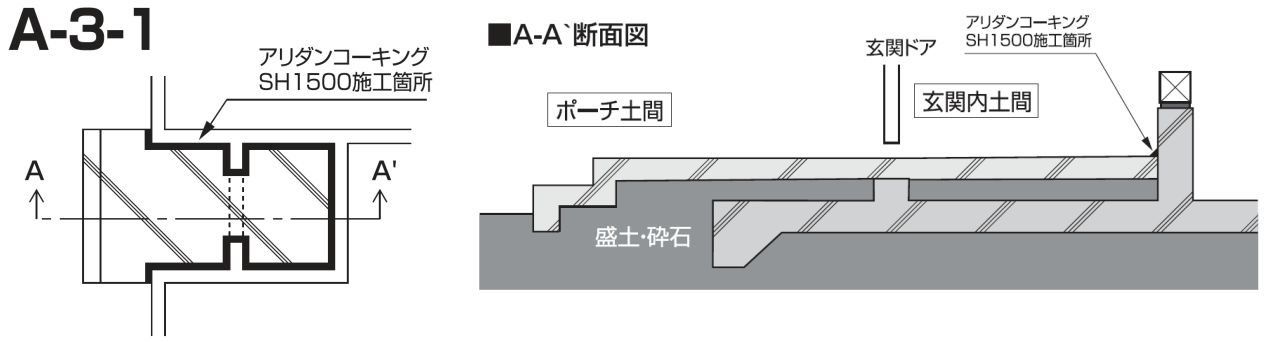






A.基礎底盤・立ち上がりを「**一体で**コンクリート打設」する場合⑤

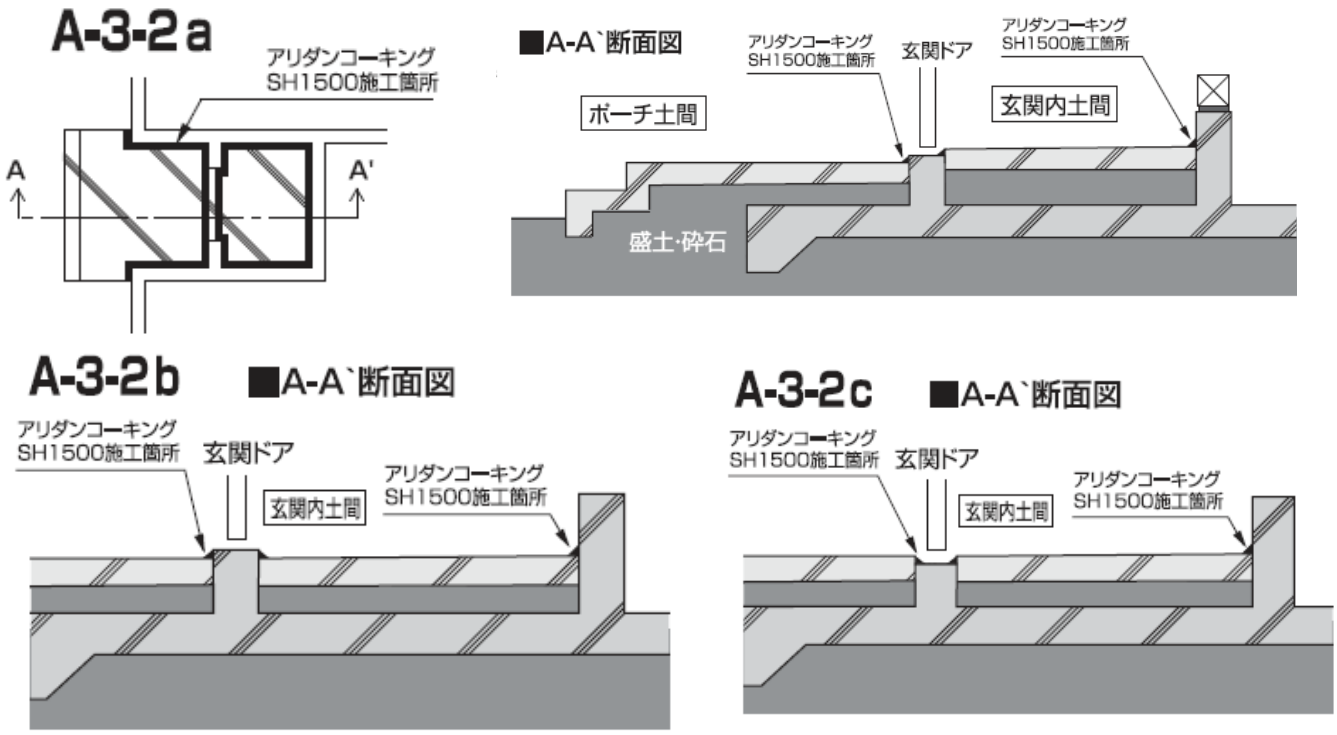
A-3-1.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石あり)」で「玄関ドア下部基礎立ち上がりあり」で
一体で土間コンクリートを打設する場合



※上記のタイプは、ポーチ土間・玄関土間打設前に防蟻施工を行える方法（P28 参照）があります。

A.基礎底盤・立ち上がりを「**一体で**コンクリート打設」する場合⑥

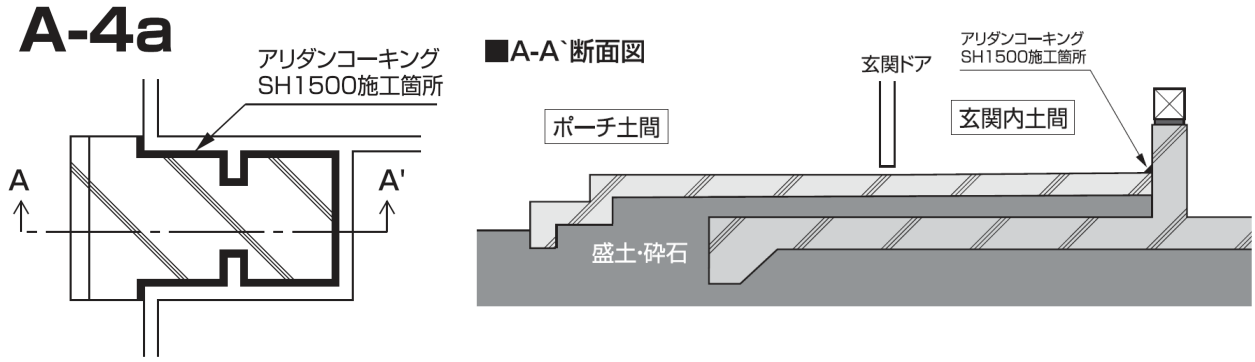
A-3-2.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石あり)」で「玄関ドア下部基礎立ち上がりあり」で
分離して土間コンクリートを打設する場合



※上記のタイプは、ポーチ土間・玄関土間打設前に防蟻施工を行える方法（P28 参照）があります。

A.基礎底盤・立ち上がりを「**一体で**コンクリート打設」する場合⑦

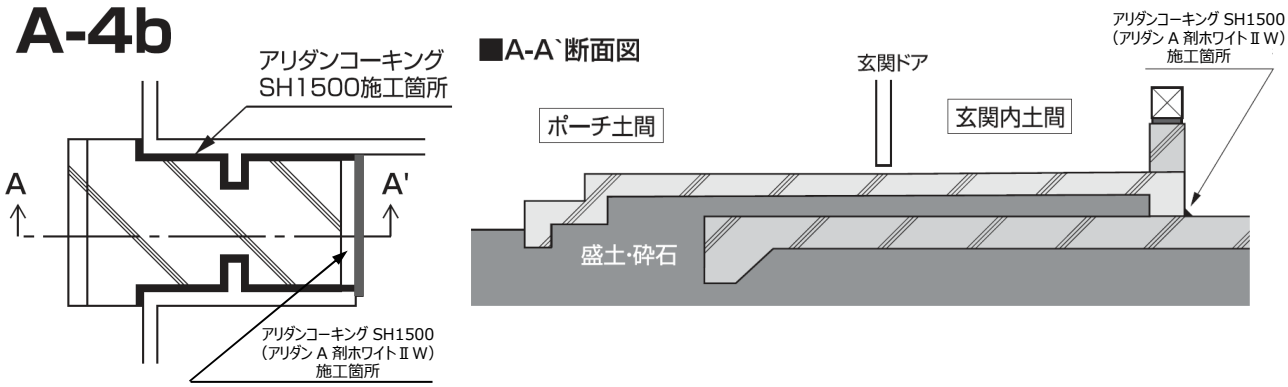
A-4.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石あり)」で「玄関ドア下部基礎立ち上がりなし」で
一体で土間コンクリートを打設する場合



※上記のタイプは、ポーチ土間・玄関土間打設前に防蟻施工を行える方法（P28 参照）があります。

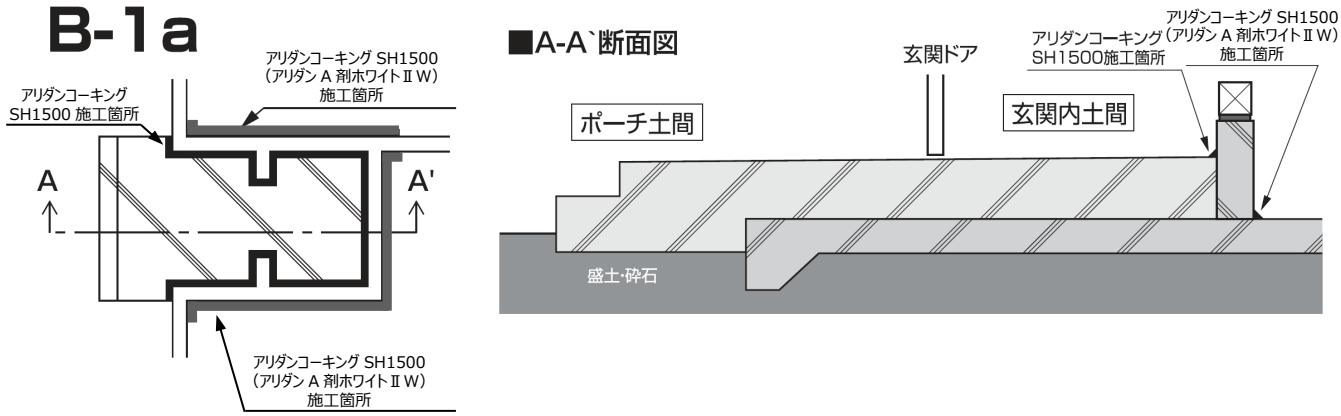
A.基礎底盤・立ち上がりを「**一体で**コンクリート打設」する場合⑦

A-4.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石あり)」で「玄関ドア下部基礎立ち上がりなし」で
一体で土間コンクリートを打設する場合



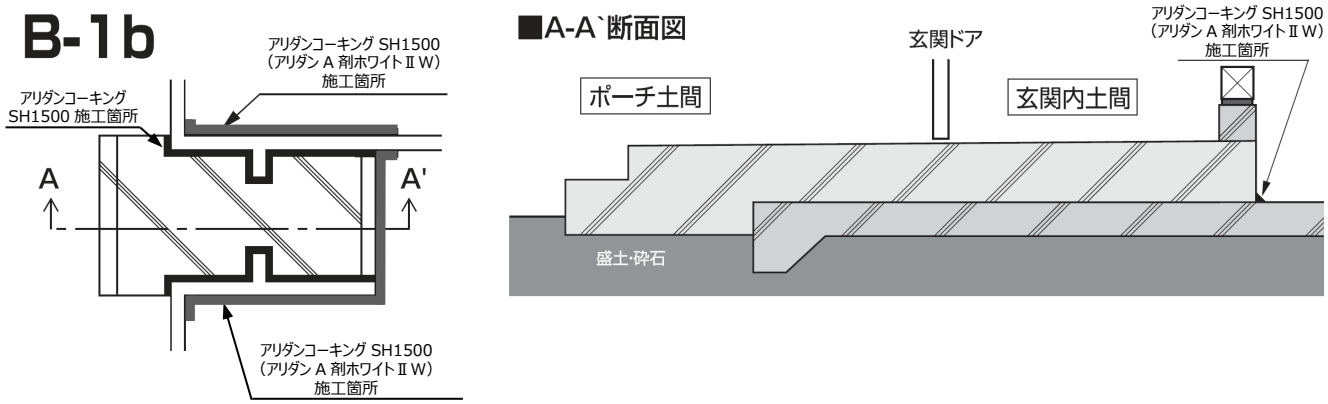
B.基礎底盤・立ち上がりを「**分離して**コンクリート打設」する場合①

B-1.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石なし)」で一体で土間コンクリートを打設する場合



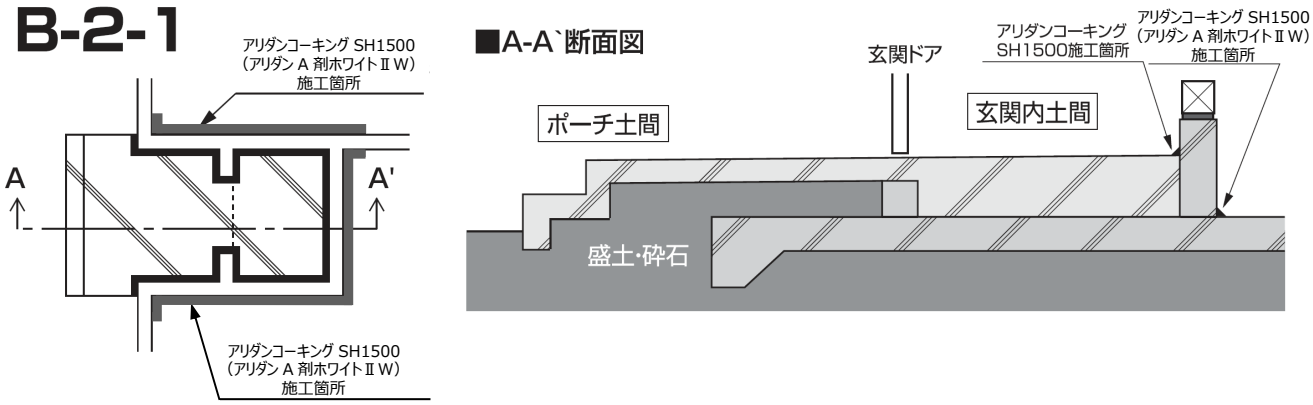
B.基礎底盤・立ち上がりを「**分離して**コンクリート打設」する場合②

B-1.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石なし)」で一体で土間コンクリートを打設する場合



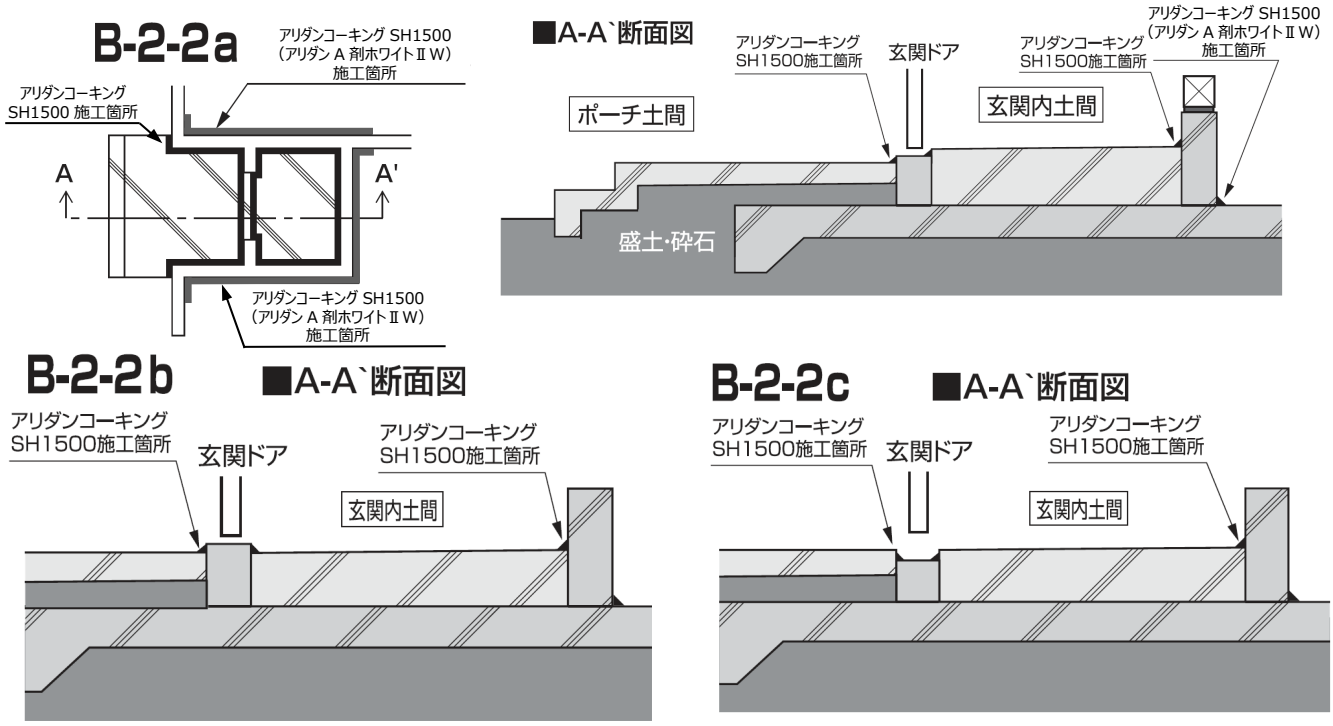
B.基礎底盤・立ち上がりを「**分離して**コンクリート打設」する場合③

B-2-1.「ポーチ土間(盛土・砕石あり)・玄関内土間(盛土・砕石なし)」で一体で土間コンクリートを打設する場合



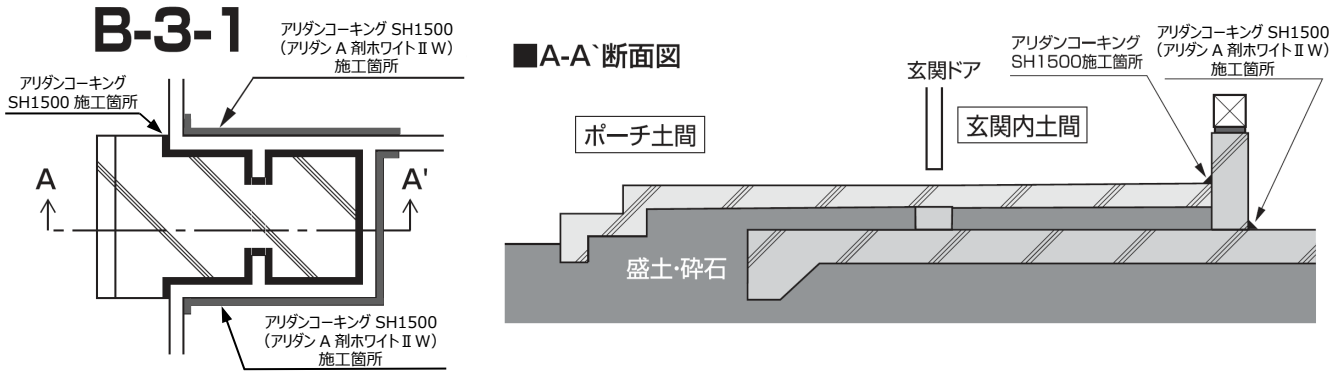
B.基礎底盤・立ち上がりを「**分離して**コンクリート打設」する場合④

B-2-2.「ポーチ土間(盛土・砕石あり)・玄関内土間(盛土・砕石なし)」で分離して土間コンクリートを打設する場合



B.基礎底盤・立ち上がりを「**分離して**コンクリート打設」する場合⑤

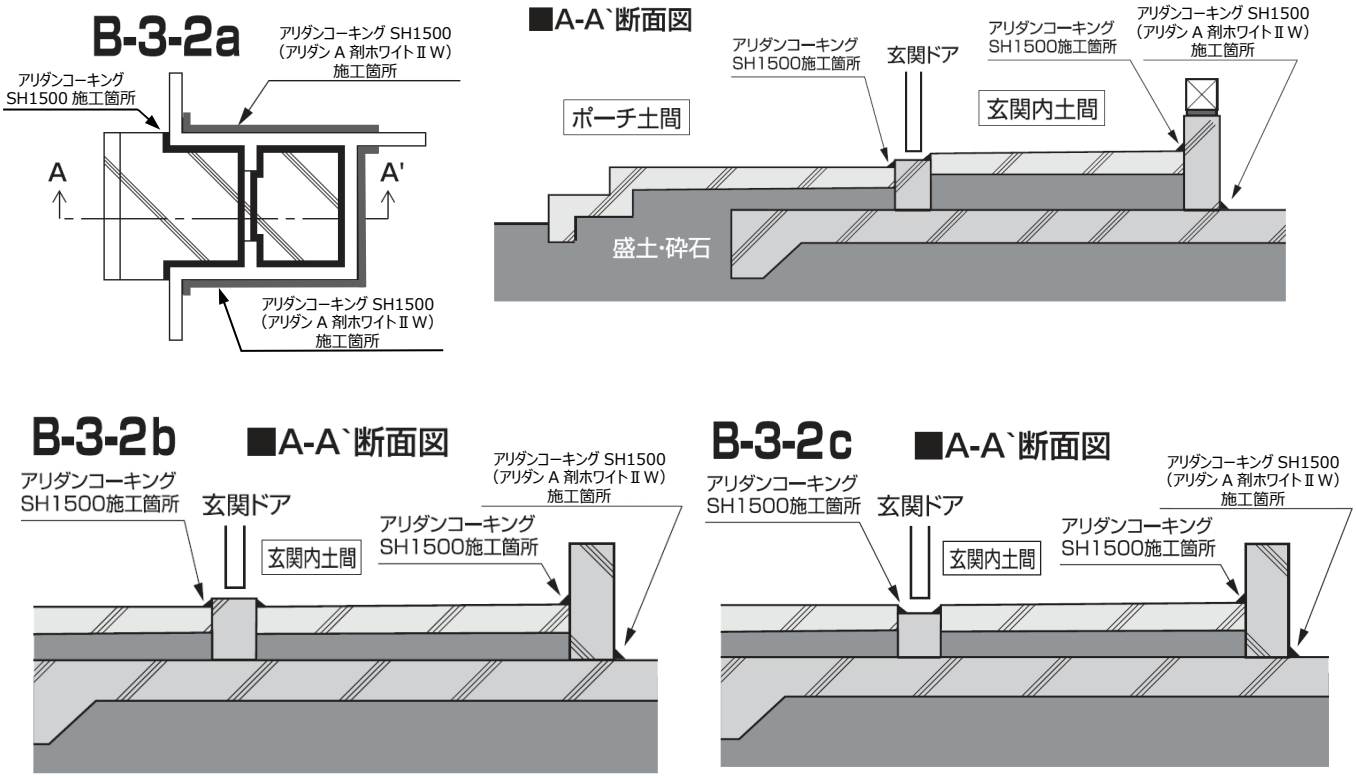
B-3-1.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石あり)」で「玄関ドア下部基礎立ち上がりあり」で
一体で土間コンクリートを打設する場合



※上記のタイプは、ポーチ土間・玄関土間打設前に防蟻施工を行える方法（P28 参照）があります。

B.基礎底盤・立ち上がりを「**分離して**コンクリート打設」する場合⑥

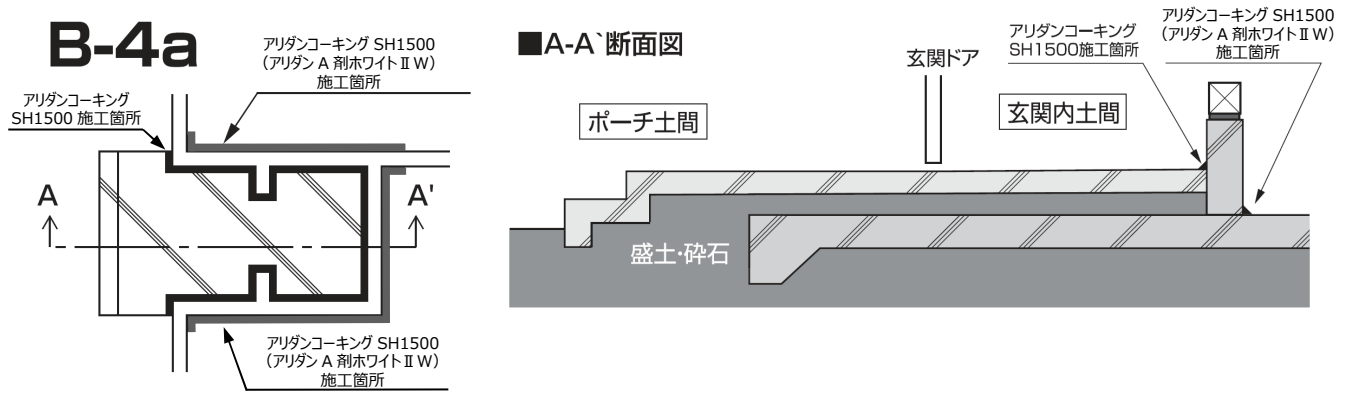
B-3-2.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石あり)」で「玄関ドア下部基礎立ち上がりあり」で
分離して土間コンクリートを打設する場合



※上記のタイプは、ポーチ土間・玄関土間打設前に防蟻施工を行える方法（P28 参照）があります。

B.基礎底盤・立ち上がりを「**分離して**コンクリート打設」する場合⑦

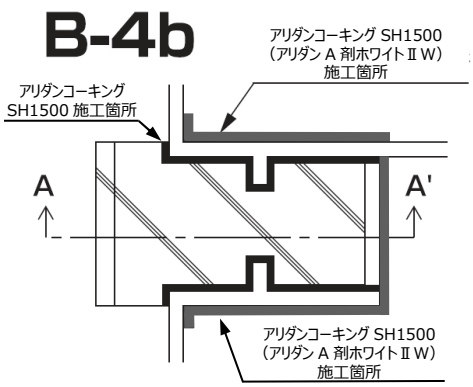
B-4.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石あり)」で「玄関ドア下部基礎立ち上がりなし」で
一体で土間コンクリートを打設する場合

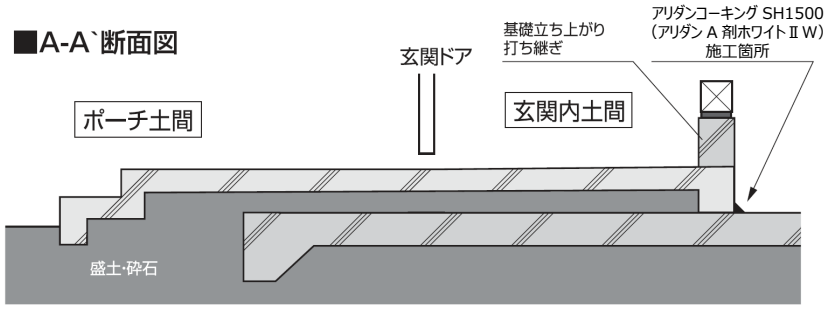


※上記のタイプは、ポーチ土間・玄関土間打設前に防蟻施工を行える方法（P28 参照）があります。

B.基礎底盤・立ち上がりを「**分離して**コンクリート打設」する場合⑧

B-4.「ポーチ土間・玄関内土間(ともに盛土・砕石あり)」で「玄関ドア下部基礎立ち上がりなし」で
一体で土間コンクリートを打設する場合

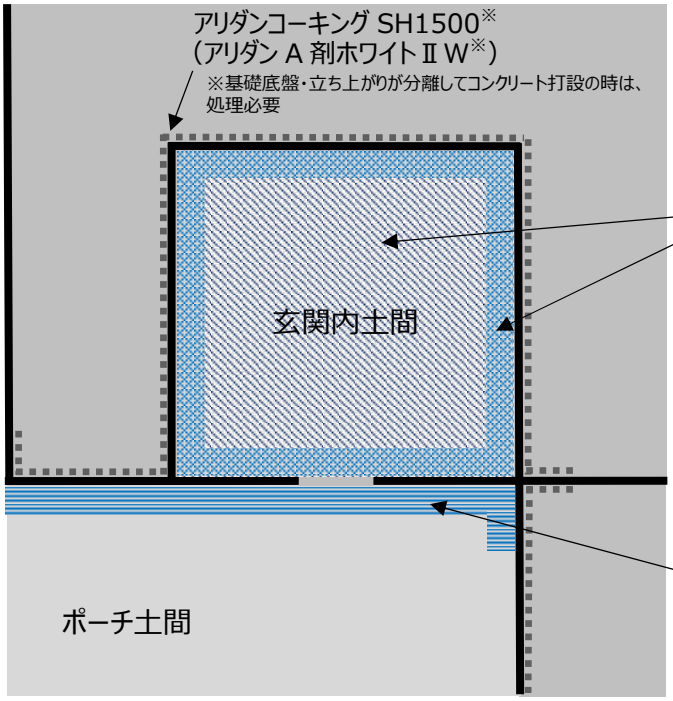




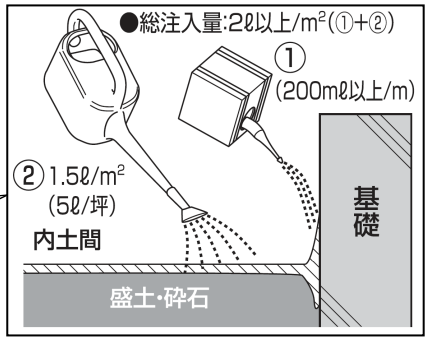
玄関土間・ポーチ土間のコンクリートを打設する前に施工を行う場合

防蟻薬液の「アリダンＡ剤ホワイトⅡＷ」を用いて下記の箇所に施工を行なう。

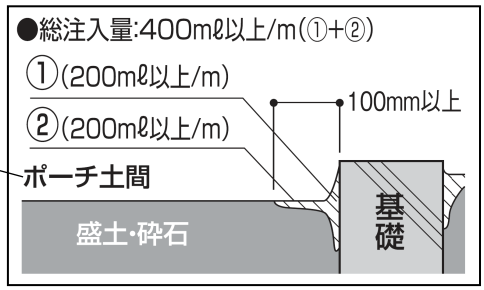
●施工範囲



■玄関（勝手口）内土間



■玄関（勝手口）ポーチ土間

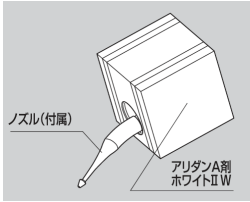


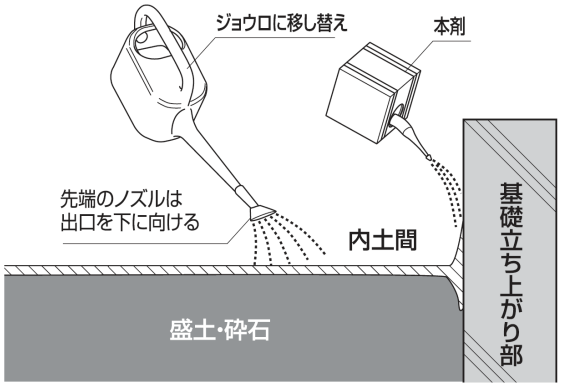
■アリダンA剤ホワイトⅡＷの施工方法

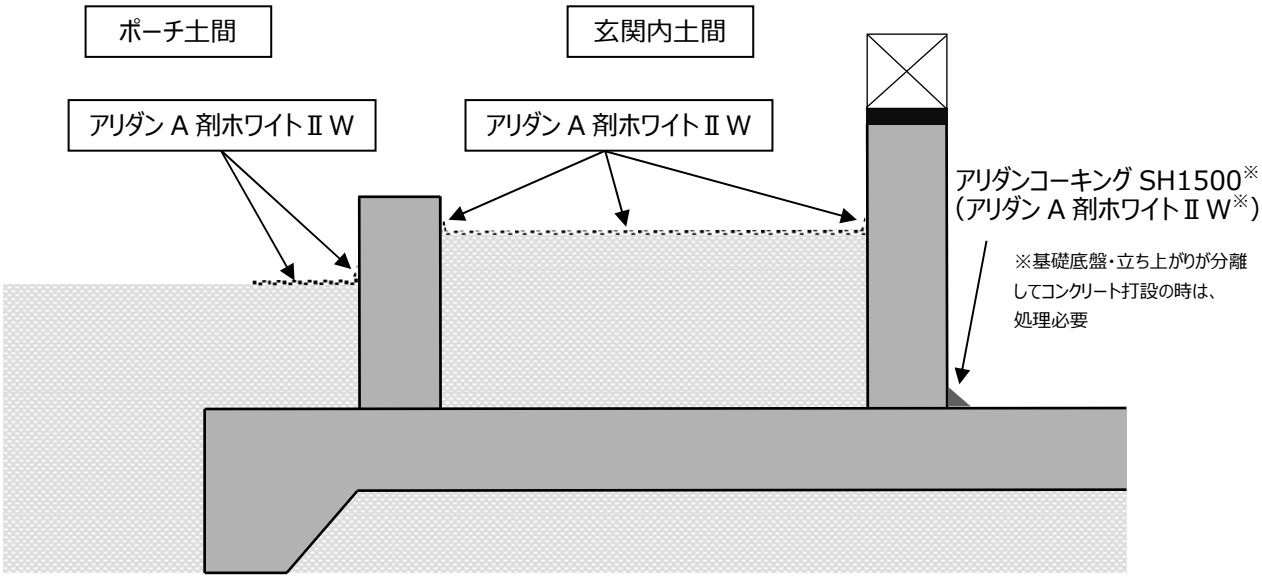
付属のノズルを本剤側に装着後、基礎立ち上がり面にかけるようにして適量を注入してください。

ジョウロを使用する場合、土間全面に均一に施工してください。

乾燥硬化:約12時間

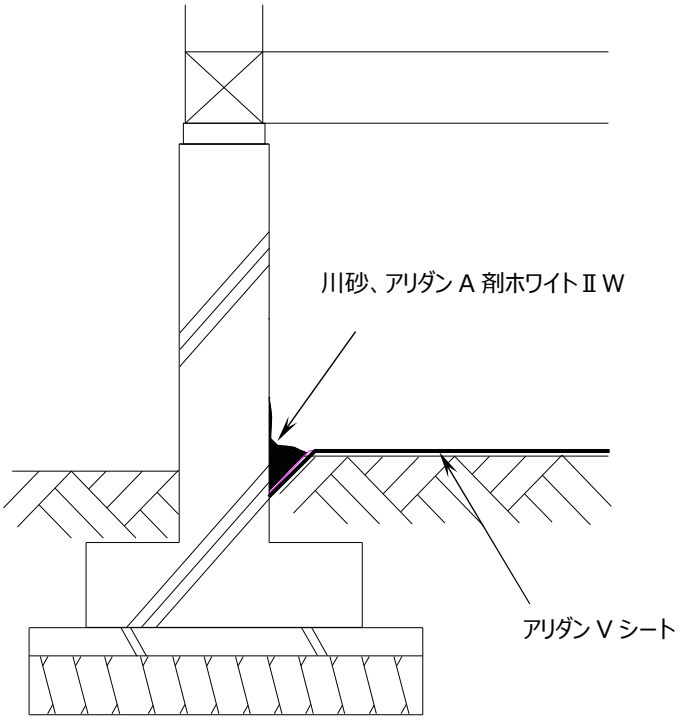




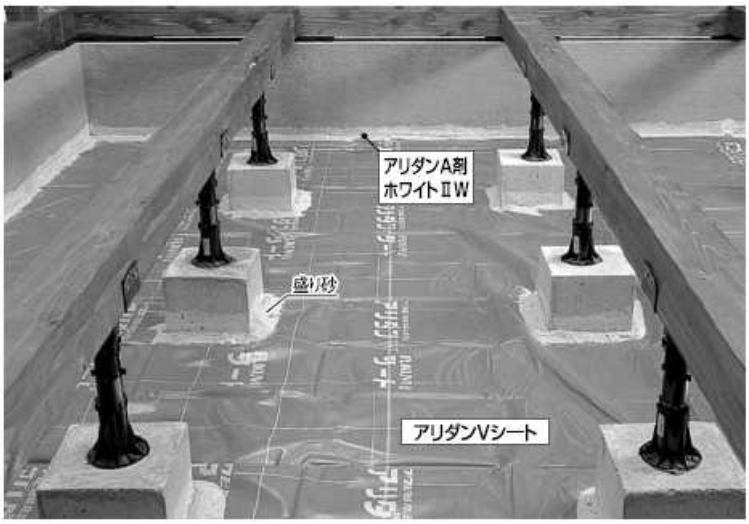


◆布基礎仕様の場合

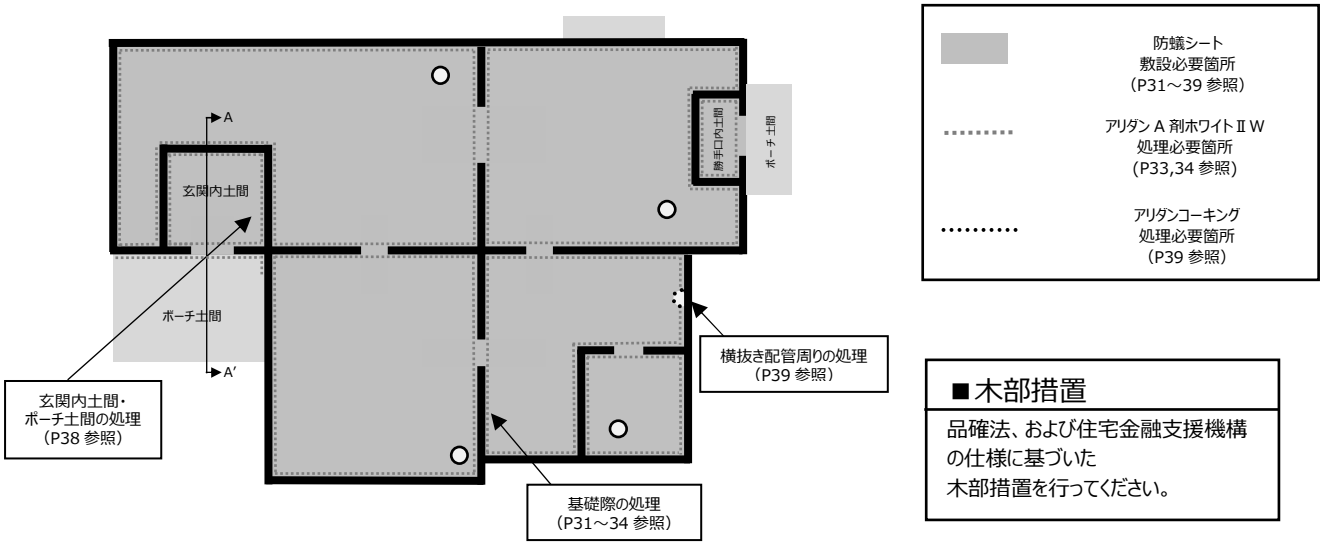
●納まり概要



アリダン V シートは、設備配管完了後、1 階床組工事前
に敷設します。

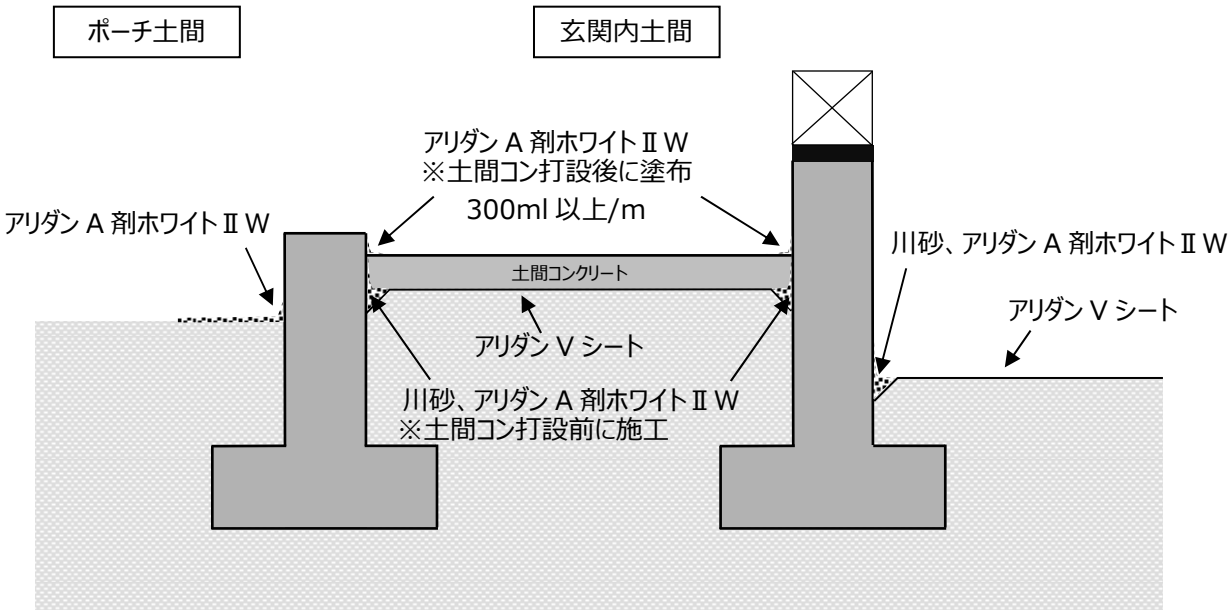


●防蟻処理必要部位例（布基礎仕様の場合）



■木部措置

品確法、および住宅金融支援機構の仕様に基づいた木部措置を行ってください。

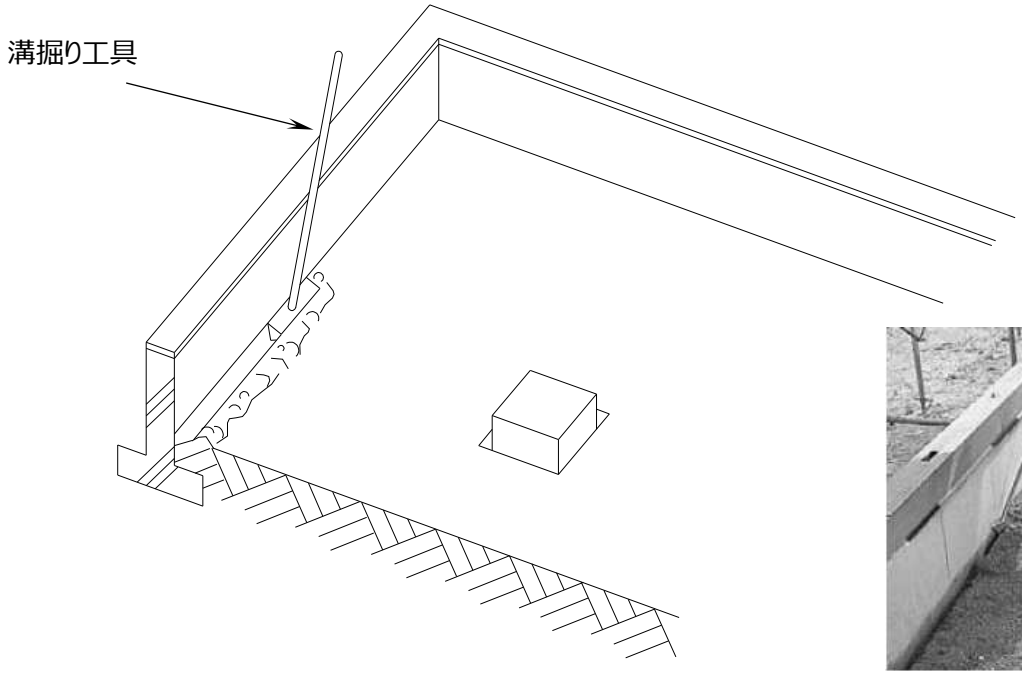


A-A' 断面図

●基本施工要領（布基礎仕様の場合）

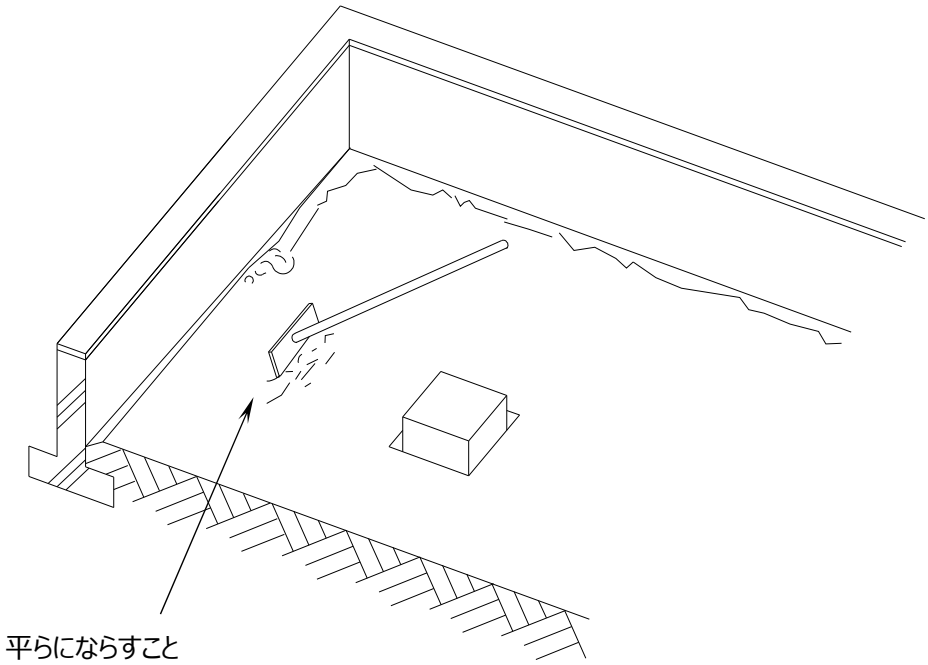
1．布基礎際の溝掘り

・地盤面のゴミや木片を取り除き、なるべく平滑に突き固めてください。
・基礎際を溝掘り工具で巾約 50mm、深さ約 30～50mm 三角状の溝を掘ります。
同じような方法で束石周り、ヘッダー固定用土間コンクリートも溝を掘ります。



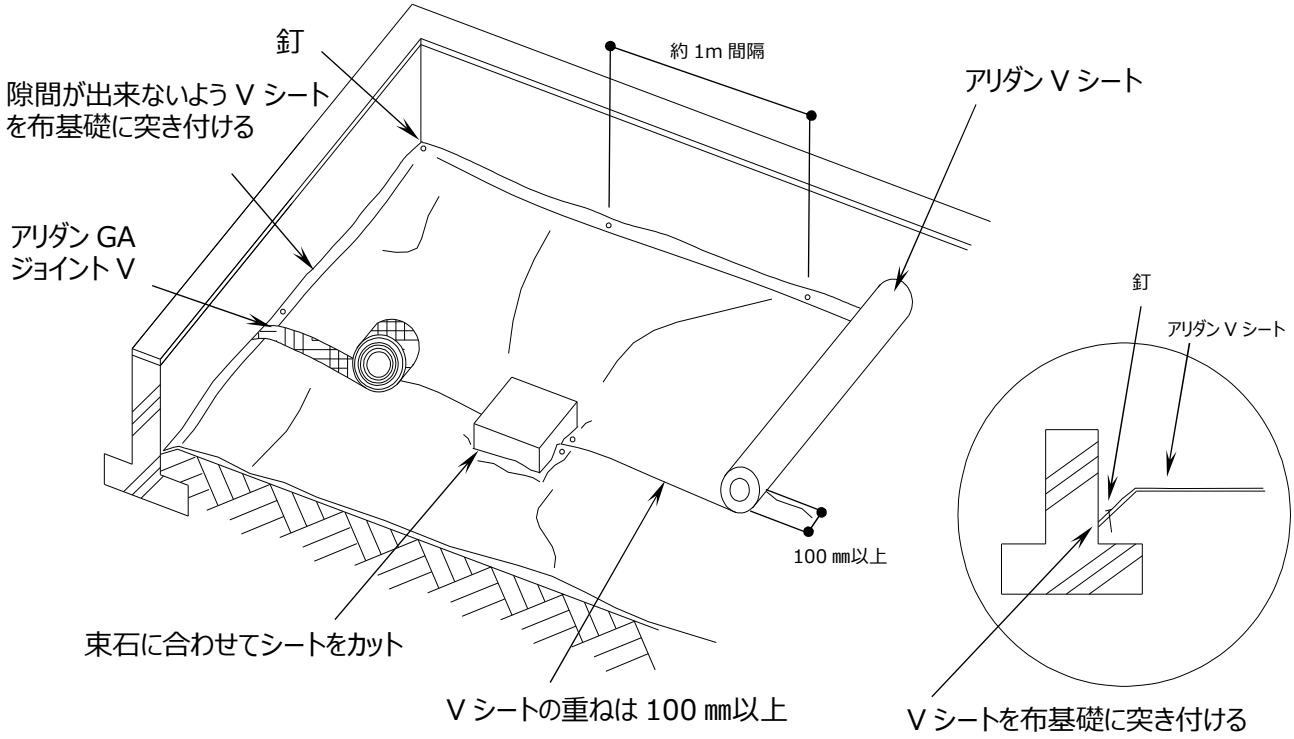
2．布基礎際の盛土ならし

・布基礎際の溝掘りで生じた土を平らにならす。同様に束石周りの土も平らにならします。



3. アリダン V シートの敷設

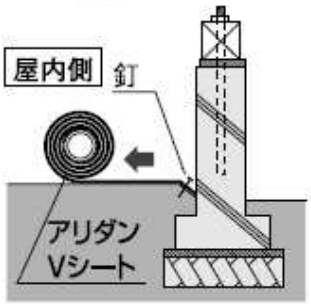
・布基礎とアリダン V シートに隙間が出来ないよう V シートを敷き込み、V シートは基礎際側に立ち上がらないようにします。
なお、その際 V シートが動かないようにする為、溝の中の V シートを釘止めします。（釘止めの間隔は約 1m）
・V シートと V シートのジョイント部分に GA ジョイント V を貼ります。（V シート重ね代 100 ㎜以上）



V シートの敷き込み

V シートのカット

V シートの貼り合わせ



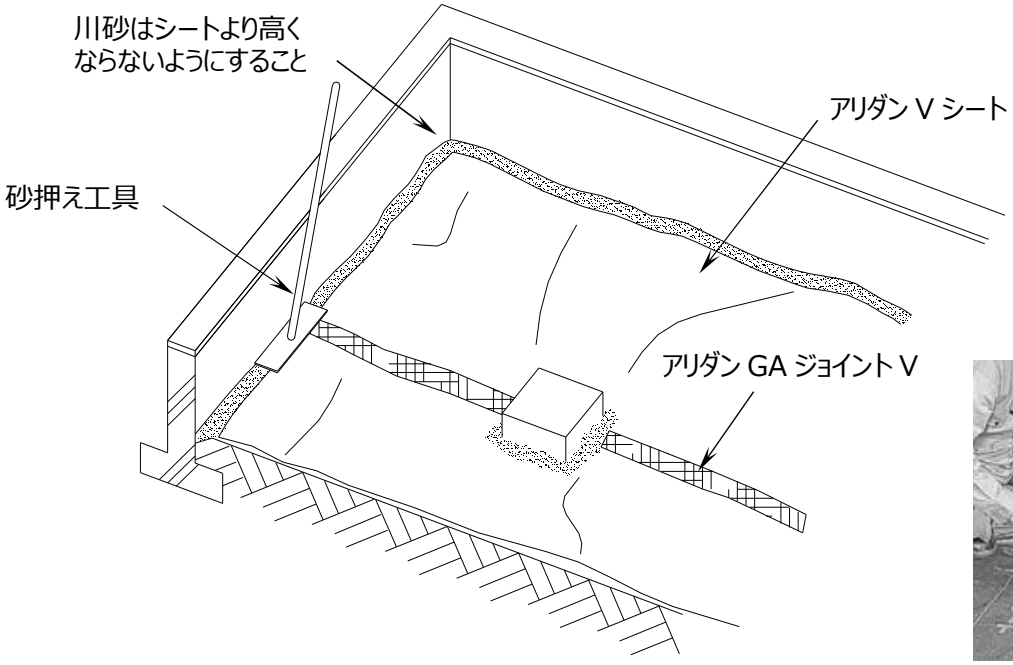
基礎際の場合

束石際の場合（独立基礎）

4. 布基礎溝への砂入れ

・布基礎際溝、束石周り溝へ、アリダン V シート の上から川砂を入れます。砂は V シートより高くならないように均一に入れます、なお V シート上にこぼれた砂はほうきで溝の中に入れます。

・溝の中の砂をならし、砂押え工具で砂を突き固めます。

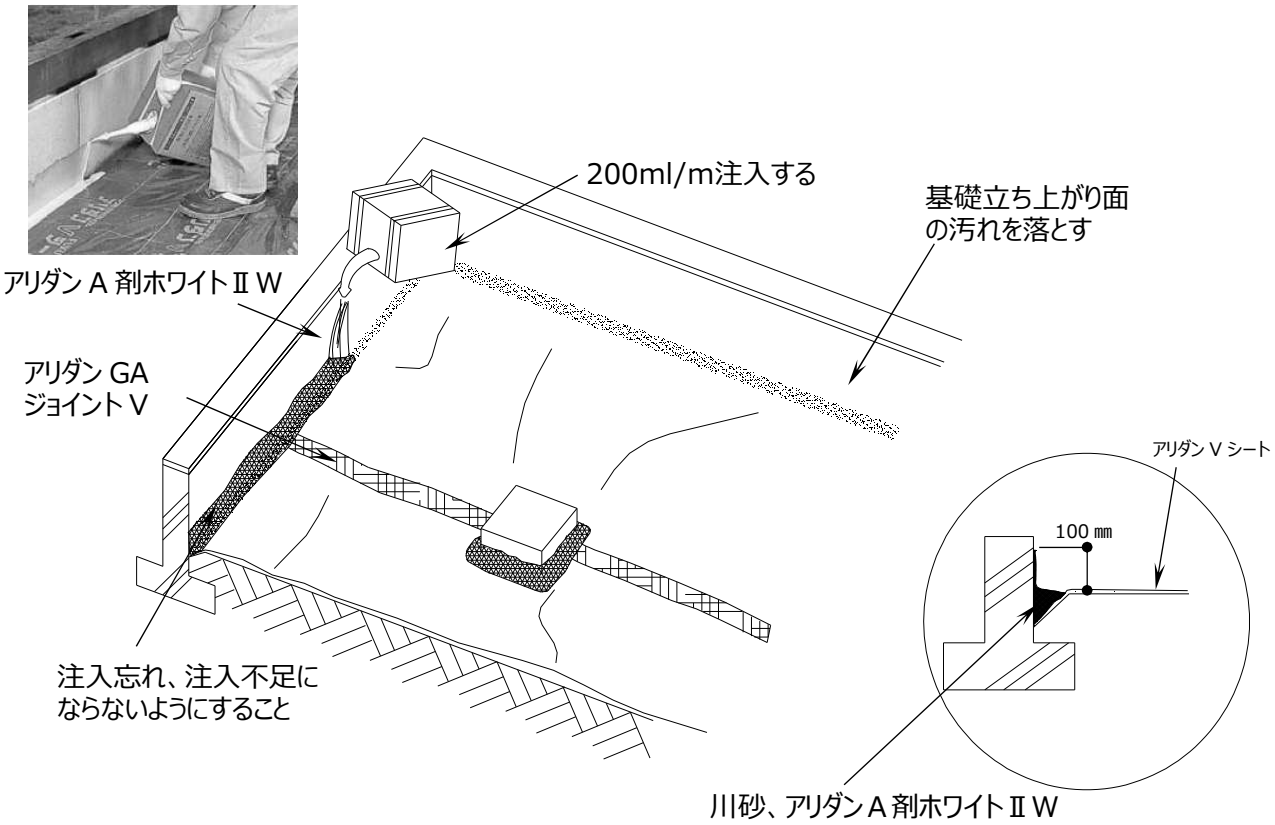


束石際への盛り砂

5. アリダン A 剤ホワイトⅡW の注入【特に入念に処理します】

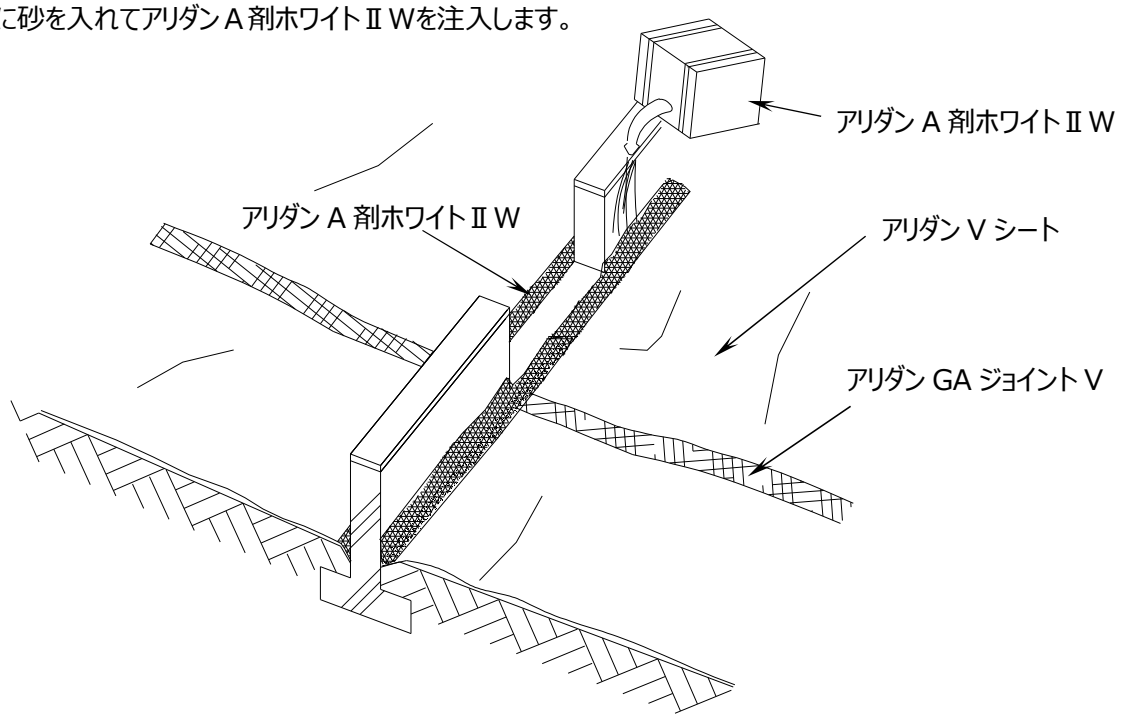
・注入面（布基礎立ち上がり面）の汚れを取り除き、アリダン A 剤ホワイトⅡW を布基礎立ち上がり 100mm の高さより砂全体に十分かかるように注入します。（注入量は布基礎 1m あたり 200ml とします。約 50m/10L 缶）

・束石周り、ヘッダー固定用土間コンクリートの立ち上がり部分にも同様、アリダン A 剤ホワイトⅡW を注入します。



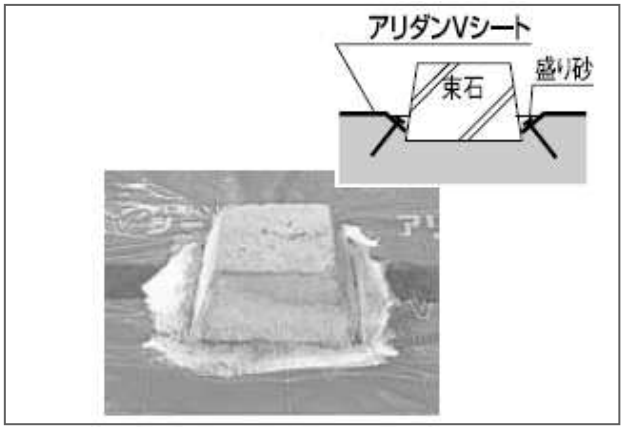
◇**アリダンＶシートの敷設（人通口）**

・人通口の部分は、布基礎際と同じように溝を掘り、隙間が出来ないようにＶシートを敷き込み、溝に砂を入れてアリダンＡ剤ホワイトⅡＷを注入します。



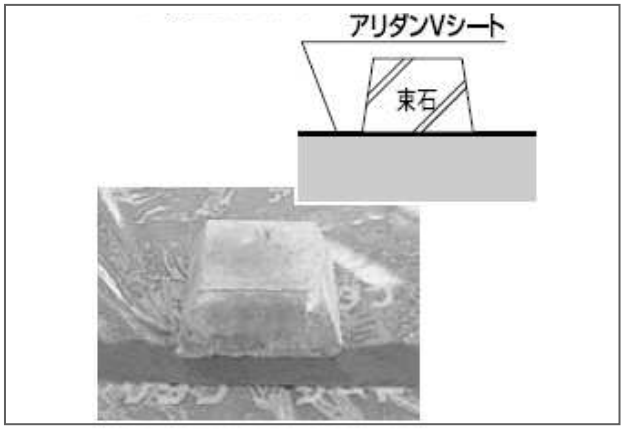
※束石の施工について

●束石が動かせない場合
（束石高さが 20 ㎝を超える場合）



アリダン V シートを切り込み、布基礎と同じ要領で施工する。

●束石が動かせる場合

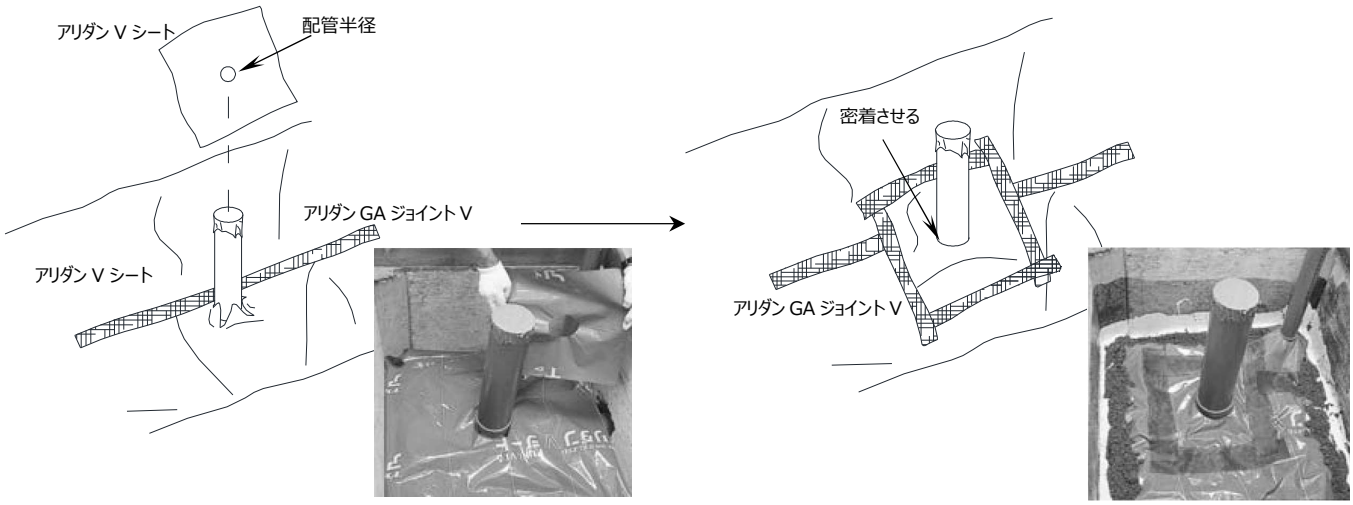


束石を移動させて、アリダン V シートを地盤上に全面に敷き詰めた後で、束石をシートの上に再度載置する。

◇アリダン V シートの敷設（配管部）

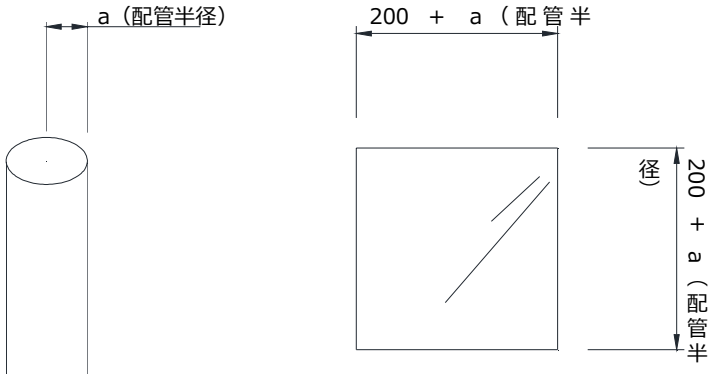
・配管部分はアリダン V シートに切り込みを入れ敷設した後、アリダン V シートのカット品を作製し、２重敷設をする。

・重ねるシートは配管径の１/2 サイズの穴をあけ、アリダン V シートを伸ばしながら納める。配管に密着させ、根元まで押し落とし、周囲をアリダン GA ジョイント V で貼付け固定する。

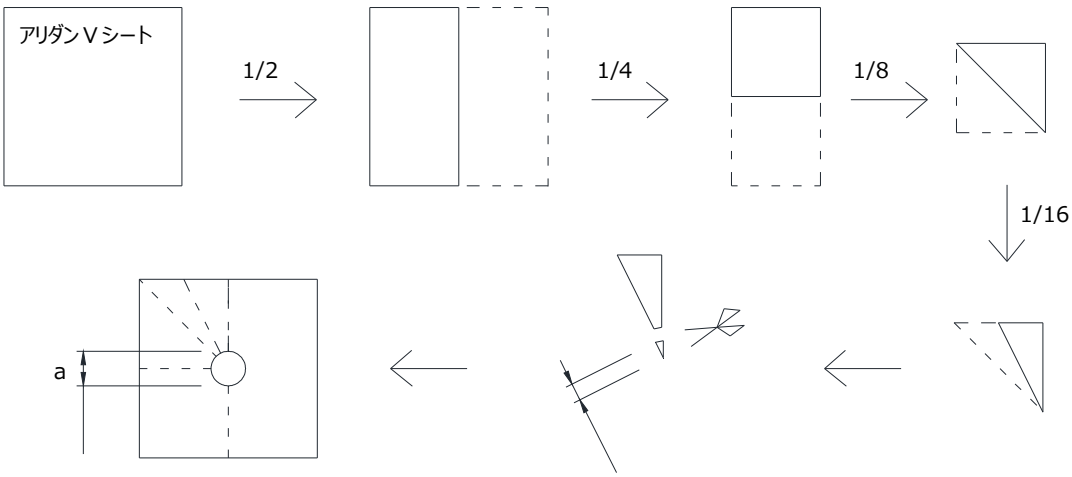


配管部処理用アリダン V シートカット品の作成

ｉ 処理する配管の半径＋200 ㎜角にアリダン V シートをカットする。



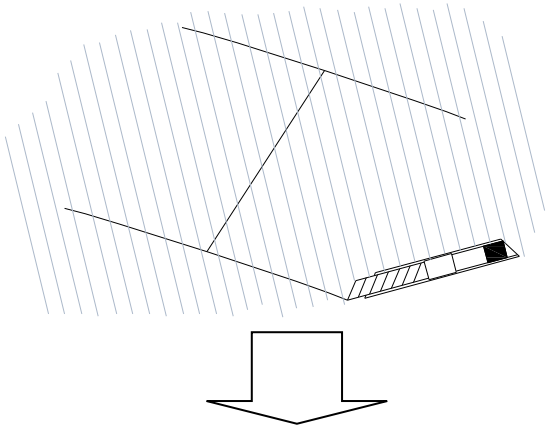
ii カットしたアリダン V シートを 1/16 に折り、配管半径の 1/2 の長さを切り落とす。



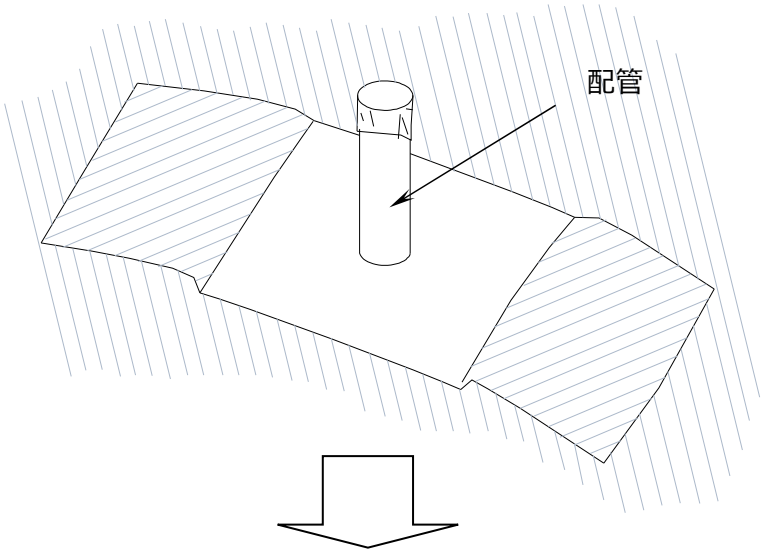
◇後配管工事

・万が一、後配管工事が発生した場合は、下記の要領にて処理します。

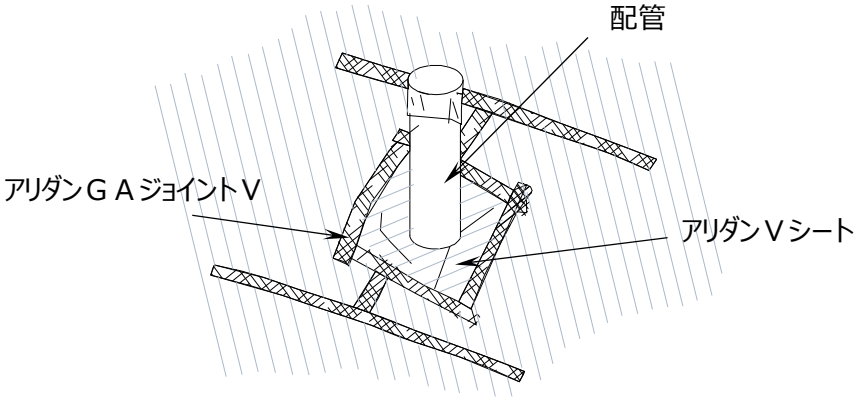
・カッター等で切り込みを入れます。



・配管工事を実施。

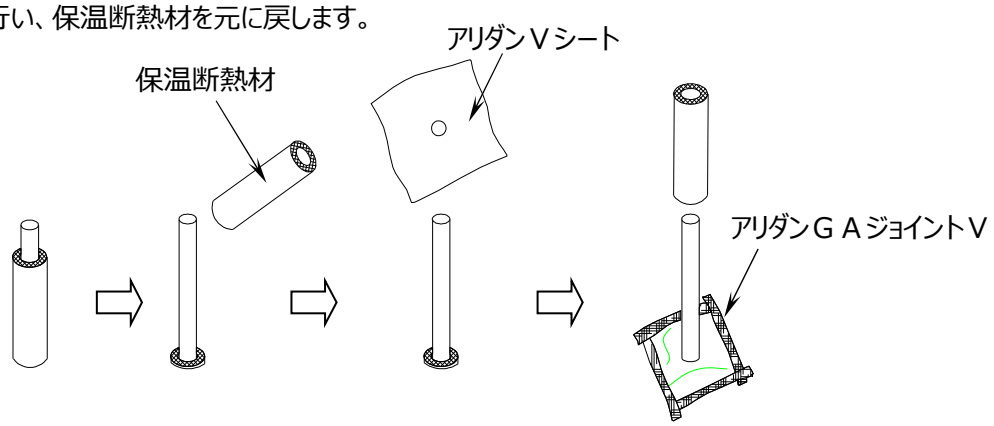


・配管回りの処理同様にシートを
2 枚重ねとします。



◇**給水・給湯配管の処理**

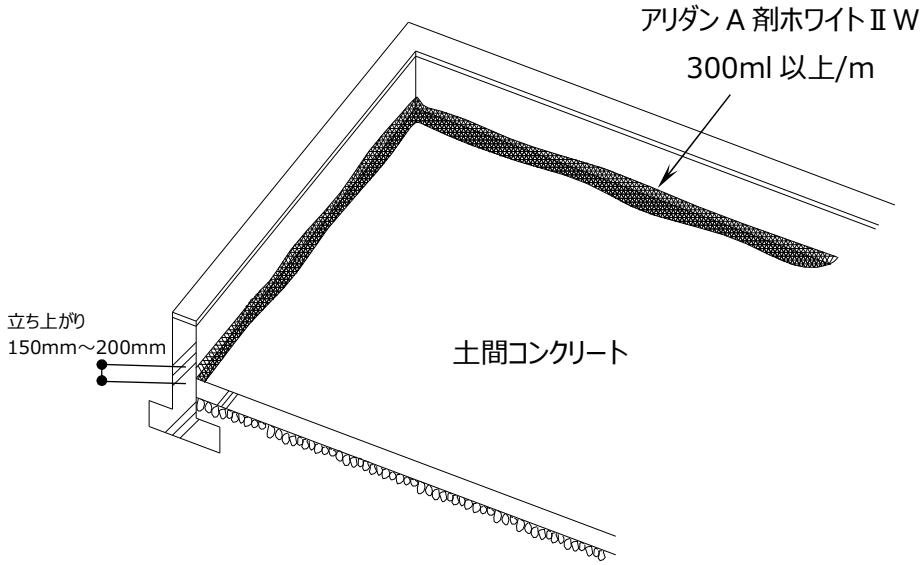
・給水・給湯配管の保温断熱材を土壌面（シート敷設面）で切り取り、配管周り処理（7.アリダンＶシート敷設(配管部)）を行い、保温断熱材を元に戻します。



※アリダンＶシート敷設前に部分的に土間コンが打設されてしまっている箇所があった場合の処理方法（浴室部など）

・下図のように配管スリーブ部及び土間コンクリートに接する基礎周りにアリダンＡ剤ホワイトⅡＷを基礎立ち上がり 150mm～200mm くらいの高さより、通常より 100ml 多い、300ml 以上/m 流し込み入念に処理します。

・ユニットバス以外の場合は、木部の薬剤処理を行います。

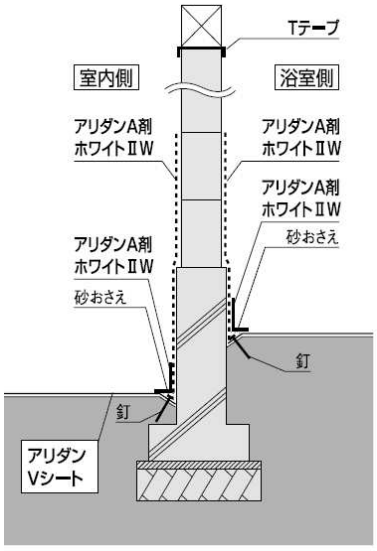


◇**ユニットバス部以外の浴室の処理**

・アリダンＶシートの敷設に加えて、土間コン打設前に下記処理を行います。

1）浴室内および反対側の布基礎の下からのブロックの 2 段目あたりまでアリダンＡ剤ホワイトⅡＷを塗布します。
（塗布量：1.5Ｌ以上/㎡）

2）浴室側は、アリダンＶシート敷設後、浴室内側の布基礎立ち上がり面にアリダンＡ剤ホワイトⅡＷを流し込みます。
（塗布量：1.5Ｌ以上/㎡）



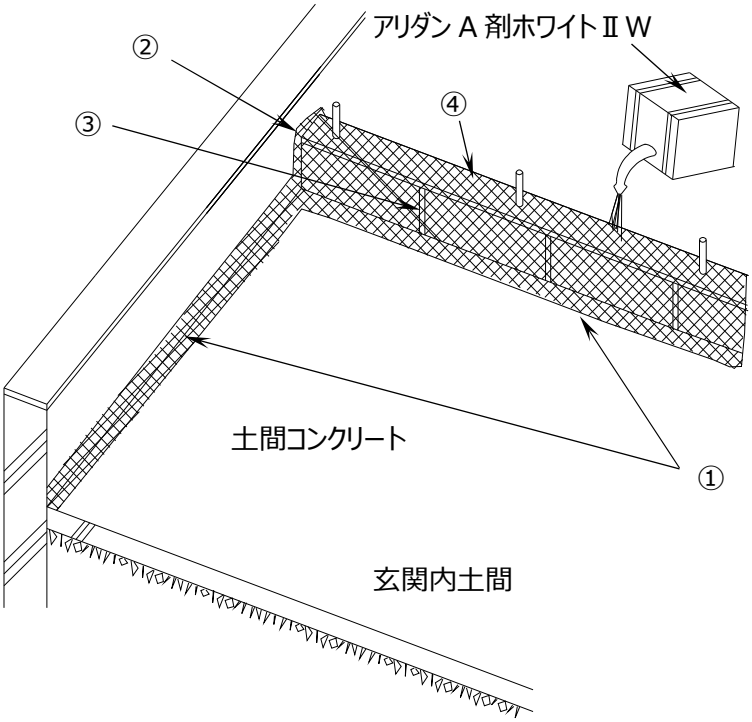
◇**玄関、勝手口の土間コンクリート部の施工【特に入念に処理します】**

・玄関、勝手口内土間は、「P31 1．布基礎際の溝掘り」から「P33 5．アリダン A 剤ホワイトⅡW の注入」 までの施工を行った後、土間コンクリート打設後、布基礎及びブロック基礎と土間コンクリートの接する位置にアリダン A 剤ホワイトⅡW を通常より 100 ㎜ l 多い、300ml 以上/m を流し込み入念に処理します。

（ブロック基礎との納まりは、このページの下部断面図を、布基礎のみの納まりは P30 を、参照のこと）

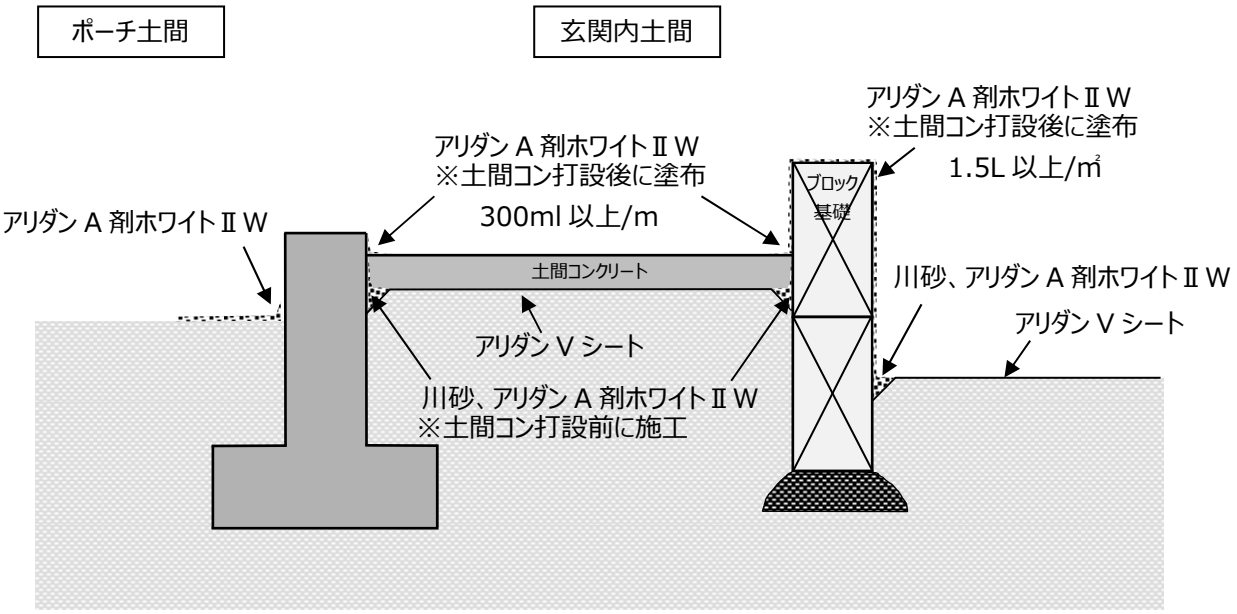
・布基礎とブロック基礎の隙間、ブロック基礎同士の隙間及び基礎天端はモルタル処理とします。

・特に玄関ドア下部への注入は入念に行います。



■アリダン A 剤ホワイトⅡW 処理箇所
① 布基礎、ブロック基礎と土間コンクリートとの打ち継ぎ部
② 布基礎とブロック基礎との打ち継ぎ部
③ ブロック基礎とブロック基礎との打ち継ぎ部
④ ブロック基礎天端

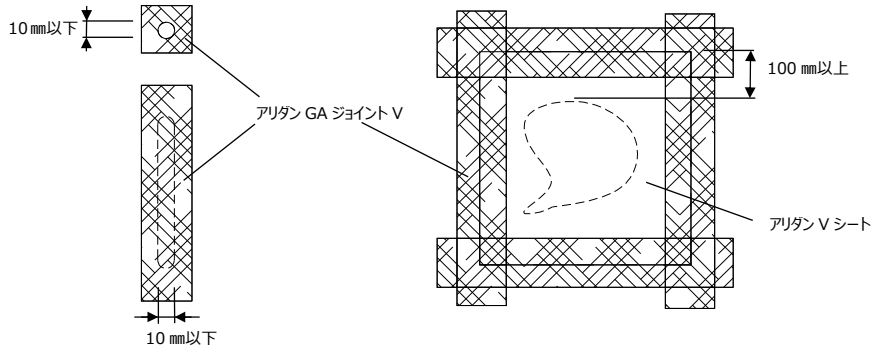
※②～④は、框下の基礎をブロック基礎を使用した場合に処理して下さい。



◇**アリダン V シートの補修方法**

・破れ・穴あきの場合、穴の大きさが 10mm 程度まではアリダン GA ジョイント V でふさいで下さい。

・穴の大きさが 10mm 以上の場合は、穴の大きさより規定の重ね代が確保できる大きさに切断した アリダン V シートを重ね、隙間が出来ないようにアリダン GA ジョイント V で貼りつけて下さい。

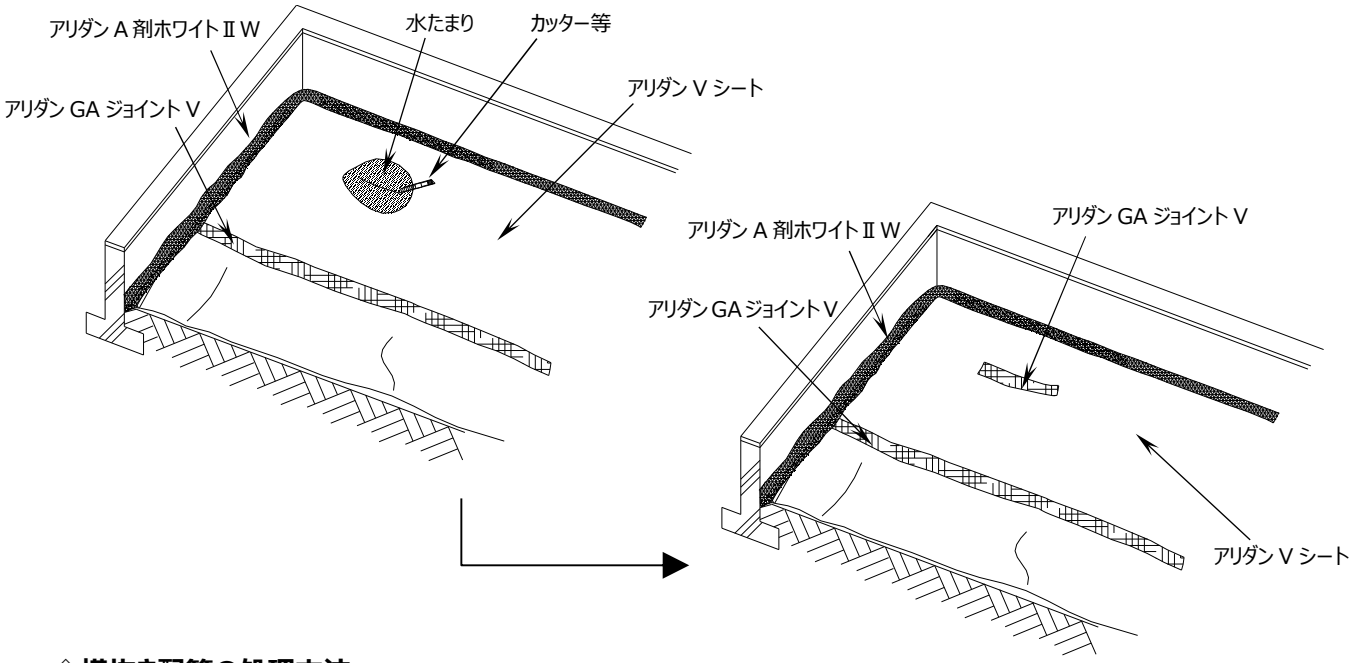


◇**雨で水が溜まった場合の処理方法**

・アリダン V シート上の水がたまったか所にカッター等で切り込みを入れ、水を抜きます。

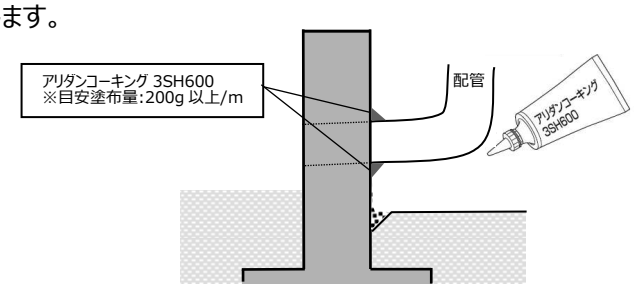
・水をアリダンシートの下に抜いた後、アリダン GA ジョイント V で切り口をふさぎます。

・アリダン GA ジョイント V を貼り忘れた箇所がないか確認し、補修終了します。



◇**横抜き配管の処理方法**

・横抜き配管周りにアリダンコーキング 3SH600 を塗布します。

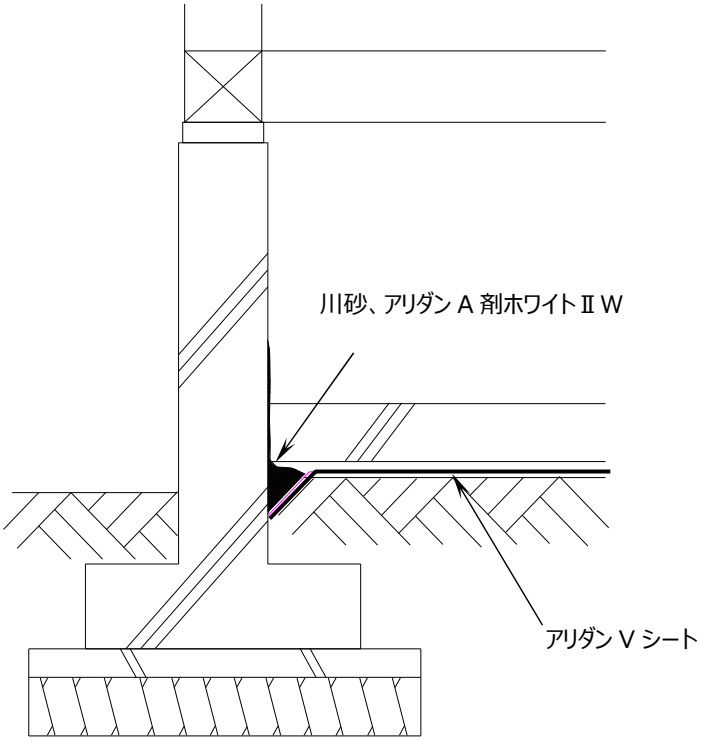


◇**清掃**

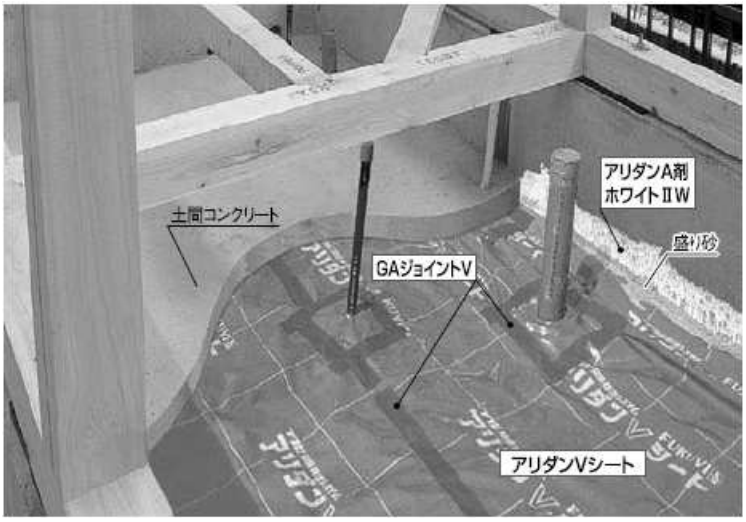
・アリダン V シート、アリダン GA ジョイント V の端切れ、アリダン A 剤ホワイトⅡW の容器は持ち帰り、産業廃棄物として専門の産業廃棄物処理業者に委託します。

◆土間コン仕様の場合

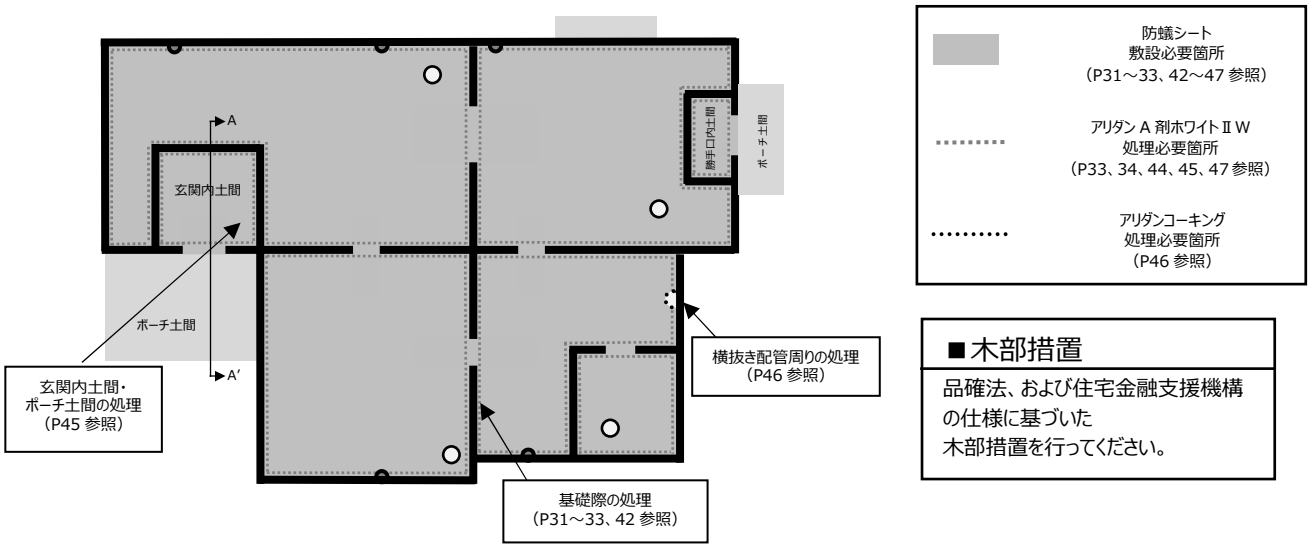
●納まり概要



アリダン V シートは、設備配管完了後、土間コン打設前に
敷設します。

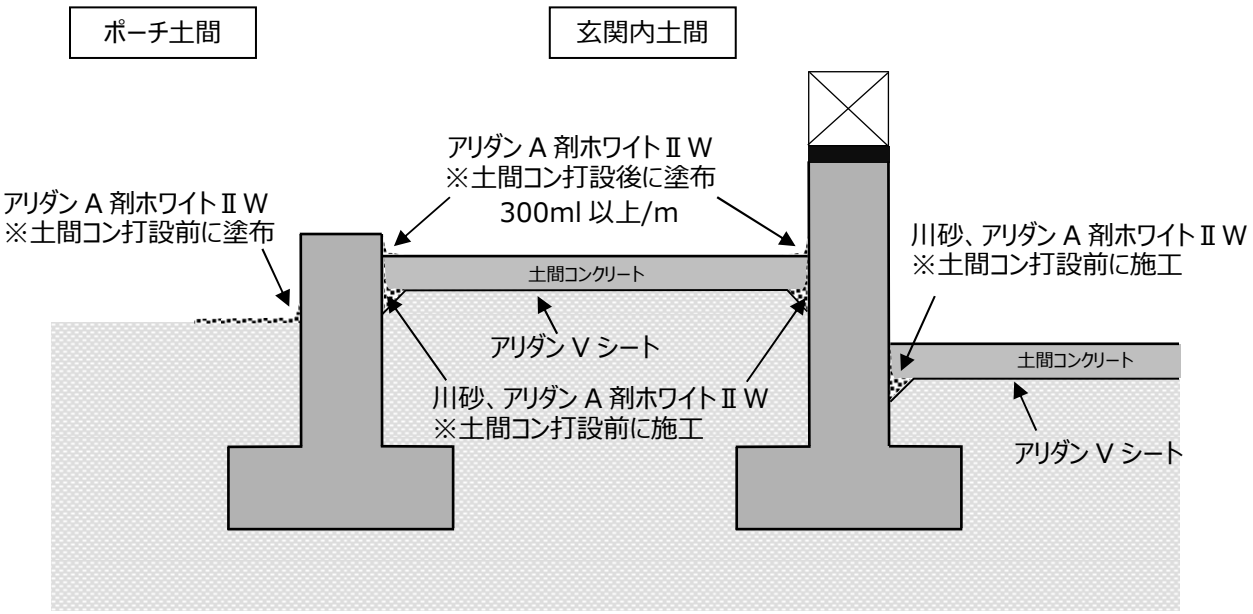


●防蟻処理必要部位例（土間コン仕様の場合）



■木部措置

品確法、および住宅金融支援機構
の仕様に基づいた
木部措置を行ってください。



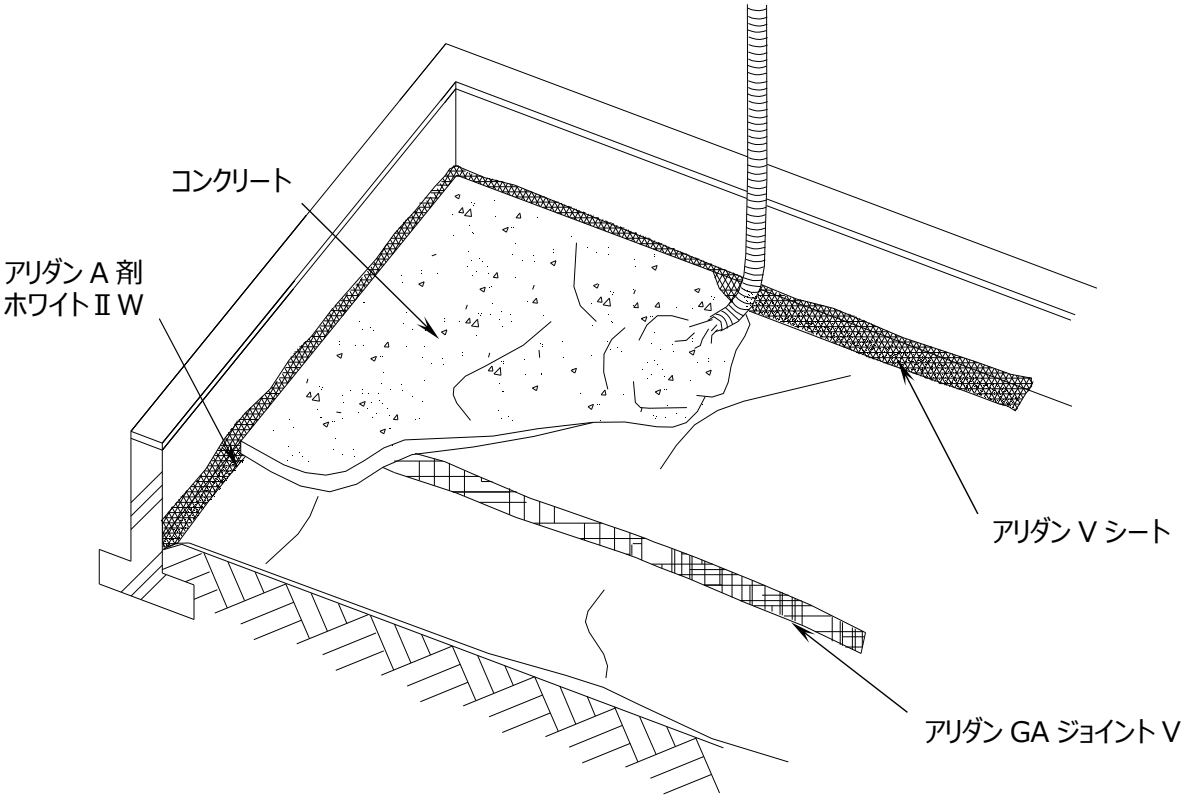
A-A' 断面図

●基本施工要領（土間コン仕様の場合）

1．まず布基礎仕様の「P31 1．布基礎際の溝掘り」から「P33 5．アリダン A 剤ホワイトⅡW の注入」の施工内容に準じて実施します。

2．土間コンクリートの打設

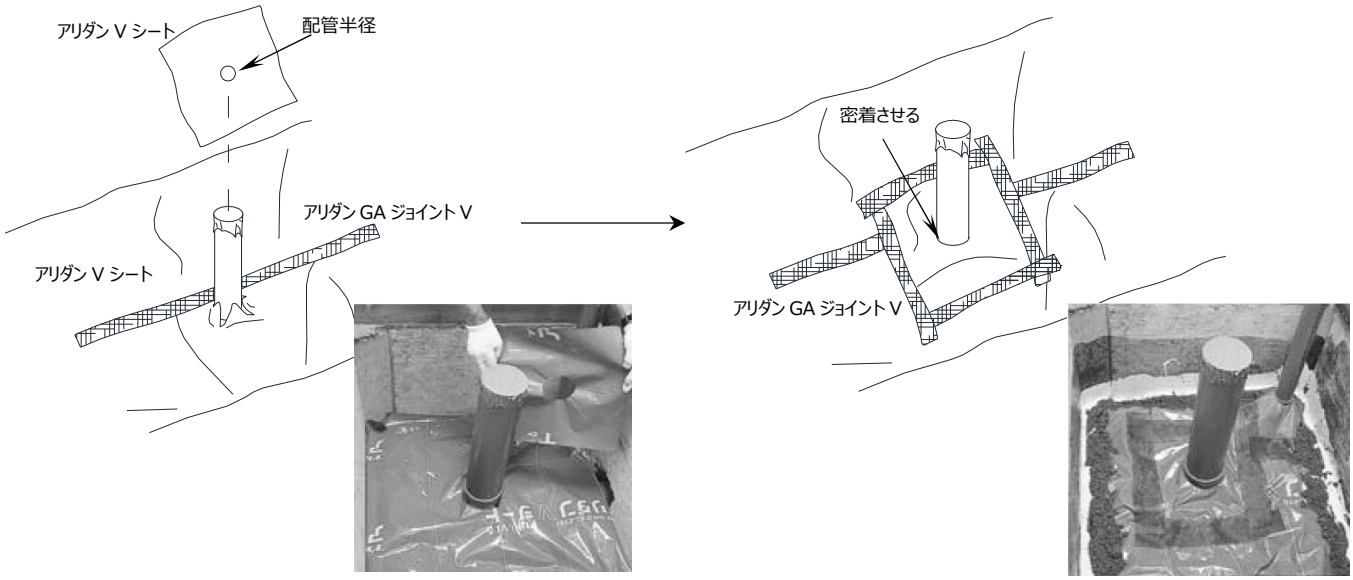
・アリダン A 剤ホワイトⅡW が完全に硬化（施工後約 12 時間）してから土間コンクリートを打設します。



◇アリダン V シートの敷設（配管部）

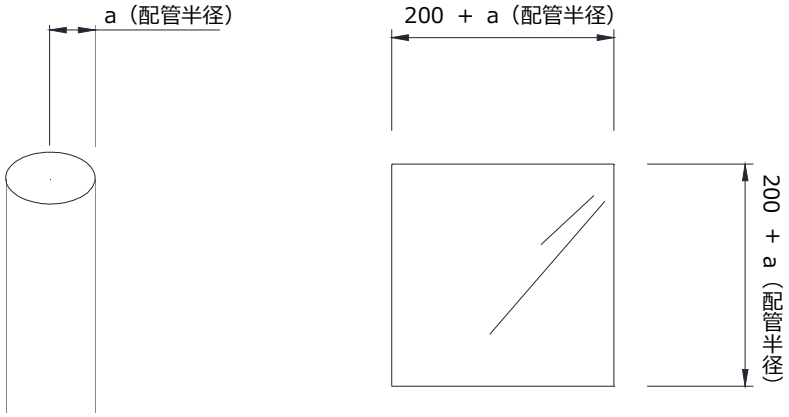
・配管部分はアリダン V シートに切り込みを入れ敷設した後、アリダン V シートのカット品を作製し、２重敷設をする。

・重ねるシートは配管径の１/2 サイズの穴をあけ、アリダン V シートを伸ばしながら納める。配管に密着させ、根元まで押し落とし、周囲をアリダン GA ジョイント V で貼付け固定する。

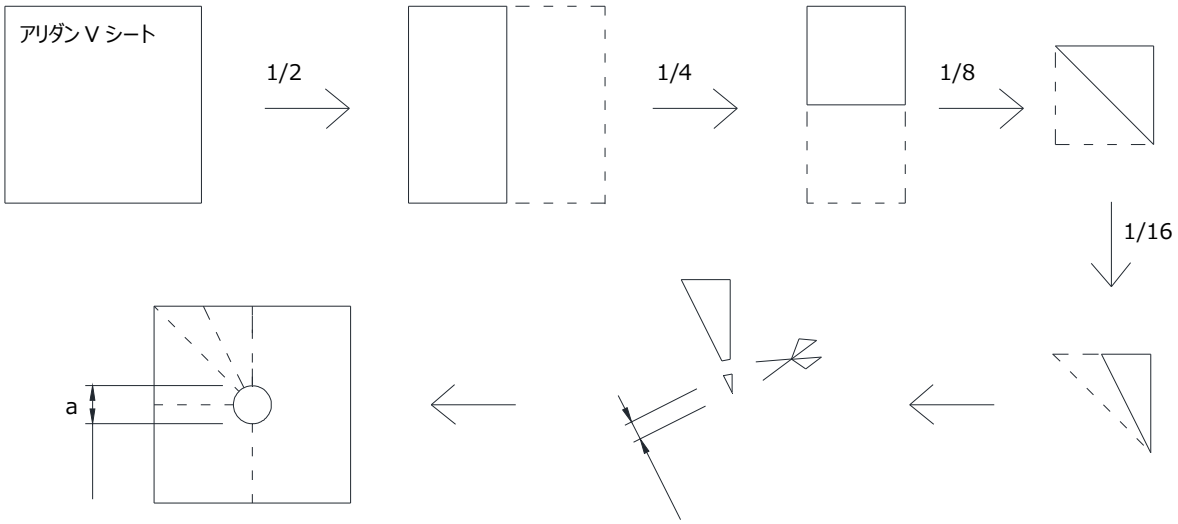


配管部処理用アリダンＶシートカット品の作成

ｉ 処理する配管の半径＋200 ㎜角にアリダンＶシートをカットする。

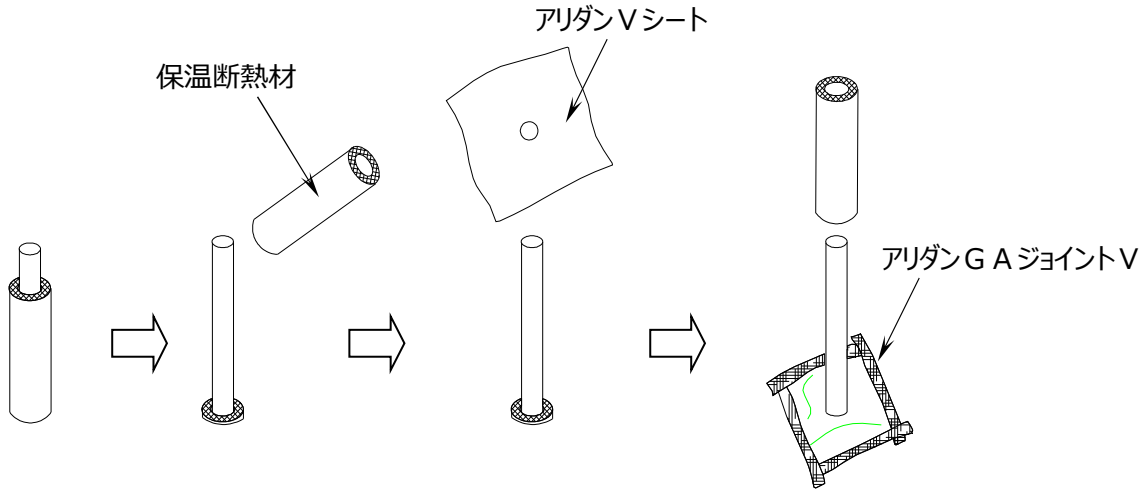


ii カットしたアリダンＶシートを 1/16 に折り、配管半径の 1/2 の長さを切り落とす。



◇給水・給湯配管の処理

・給水・給湯配管の保温断熱材を土壌面（シート敷設面）で切り取り、配管周り処理（7.アリダンＶシート敷設(配管部)）を行い、保温断熱材を元に戻します。

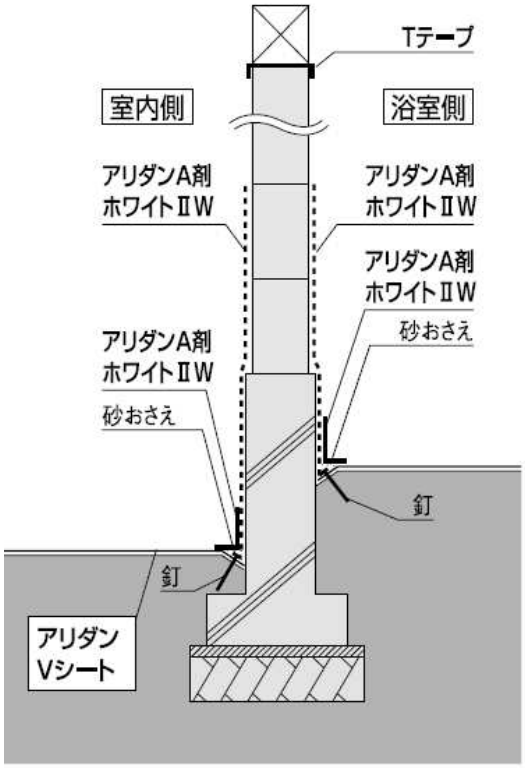


◇ユニットバス部以外の浴室の処理

・アリダン V シートの敷設に加えて、土間コン打設前に下記処理を行います。

1）浴室内および反対側の布基礎の下からのブロックの 2 段目あたりまでアリダン A 剤ホワイトⅡW を塗布します。（塗布量：1.5 L 以上/㎡）

2）浴室側は、アリダン V シート敷設後、浴室内側の布基礎立ち上がり面にアリダン A 剤ホワイトⅡW を流し込みます。（塗布量：1.5 L 以上/㎡）



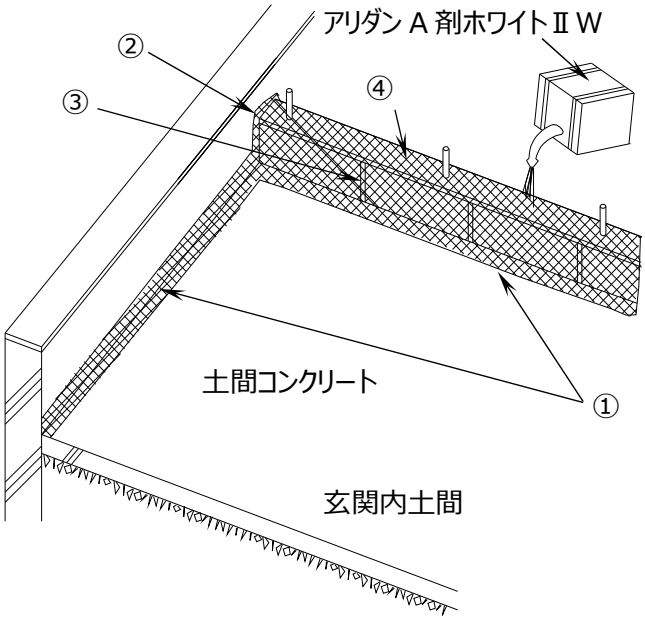
◇**玄関、勝手口の土間コンクリート部の施工【特に入念に処理します】**

・玄関、勝手口内土間は、まず布基礎仕様の「P31 1．布基礎際の溝掘り」から「P33 5．アリダン A 剤ホワイトⅡW の注入」 までの施工を行った後、土間コンクリート打設後、布基礎及びブロック基礎と土間コンクリートの接する位置に アリダン A 剤ホワイトⅡW を通常より 100m l 多い、300ml 以上/m 流し込み入念に処理します。

（ブロック基礎との納まりは、このページの下部断面図を、布基礎のみの納まりは、P41 を参照のこと）

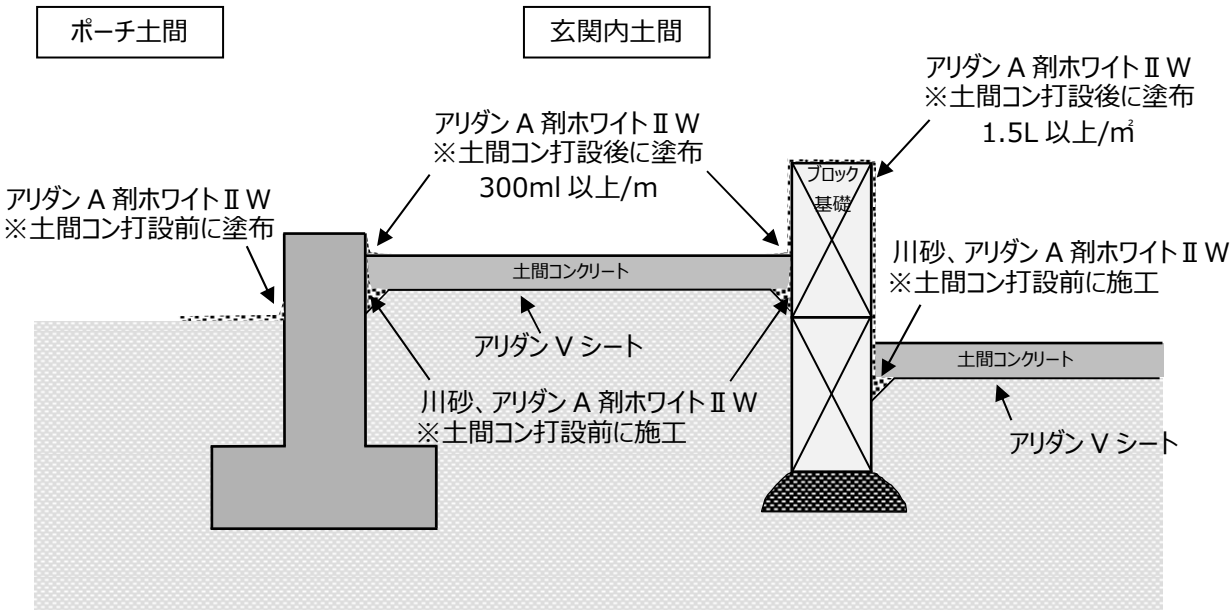
・布基礎とブロック基礎の隙間、ブロック基礎同士の隙間及び基礎天端はモルタル処理とします。

・特に玄関ドア下部への注入は入念に行います。



■アリダン A 剤ホワイトⅡW 処理箇所
① 布基礎、ブロック基礎と土間コンクリートとの打ち継ぎ部
② 布基礎とブロック基礎との打ち継ぎ部
③ ブロック基礎とブロック基礎との打ち継ぎ部
④ ブロック基礎天端

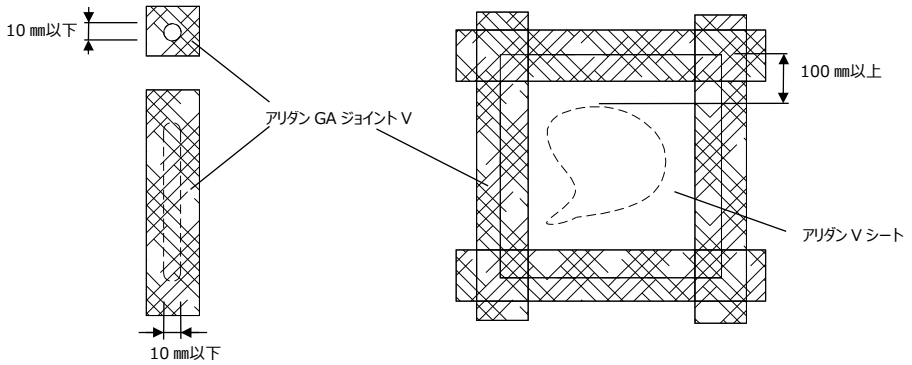
※②～④は、框下の基礎をブロック基礎を使用した場合に処理して下さい。



◇**アリダン V シートの補修方法**

・破れ・穴あきの場合、穴の大きさが 10mm 程度まではアリダン GA ジョイント V でふさいで下さい。

・穴の大きさが 10mm 以上の場合は、穴の大きさより規定の重ね代が確保できる大きさに切断した アリダン V シートを重ね、隙間が出来ないようにアリダン GA ジョイント V で貼りつけて下さい。

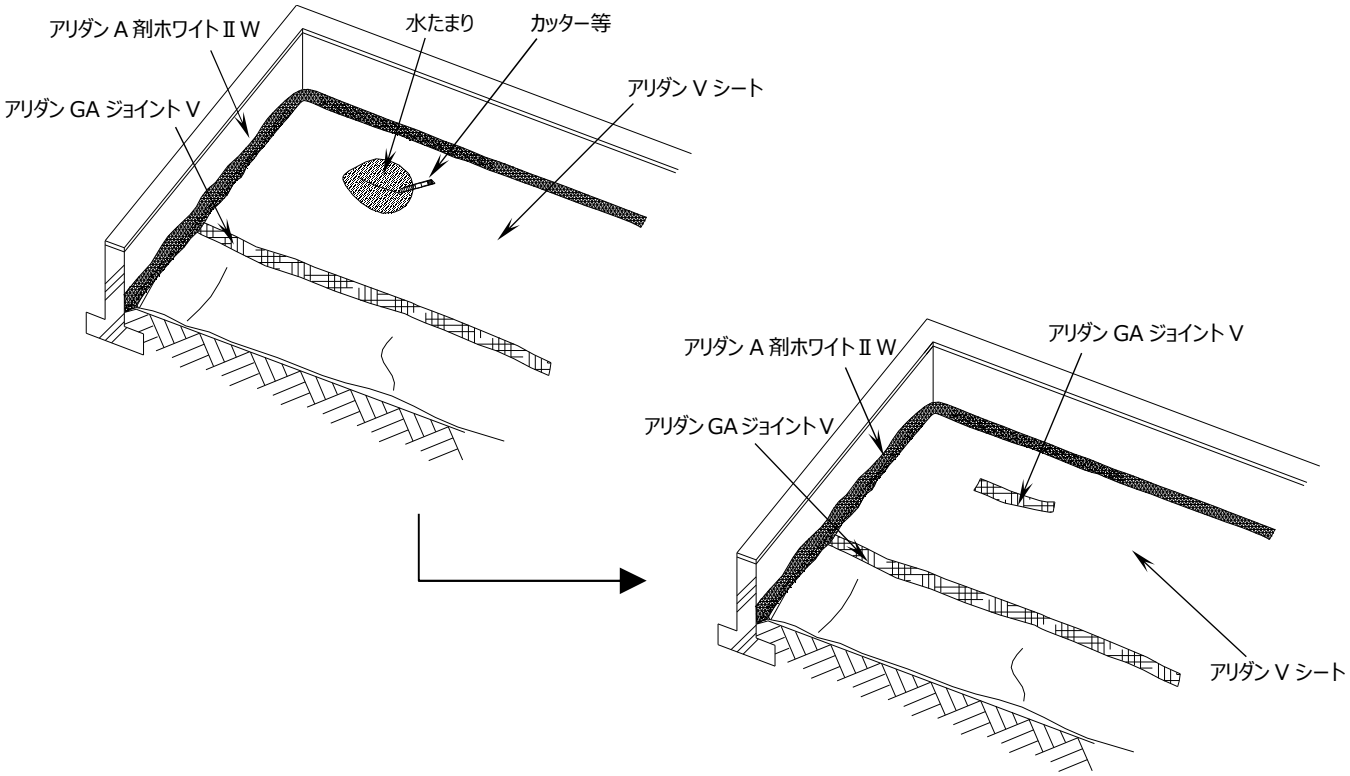


◇**雨で水が溜まった場合の処理方法**

・アリダン V シート上の水がたまったか所にカッター等で切り込みを入れ、水を抜きます。

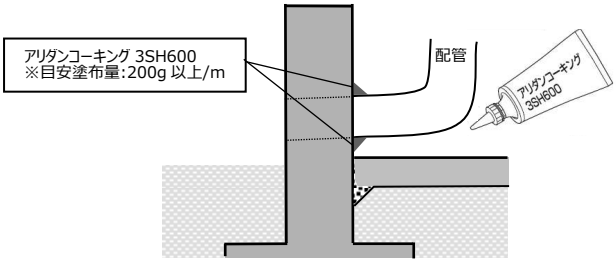
・水をアリダンシートの下に抜いた後、アリダン GA ジョイント V で切り口をふさぎます。

・アリダン GA ジョイント V を貼り忘れた箇所がないか確認し、補修終了します。



◇**横抜き配管の処理方法**

・横抜き配管周りにアリダンコーキング 3SH600 を塗布します。

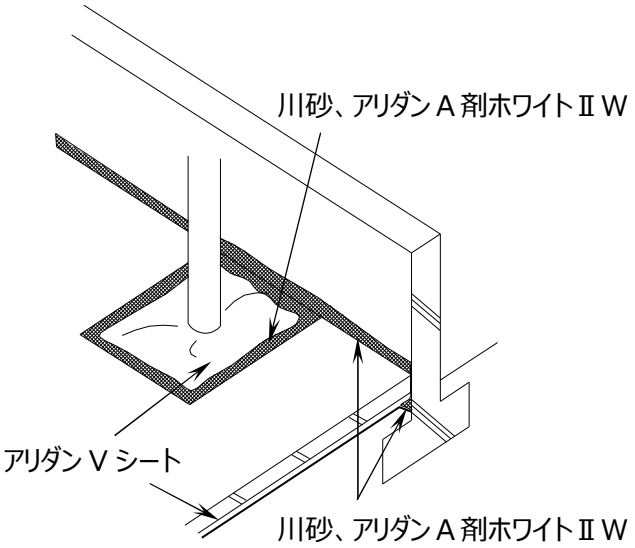


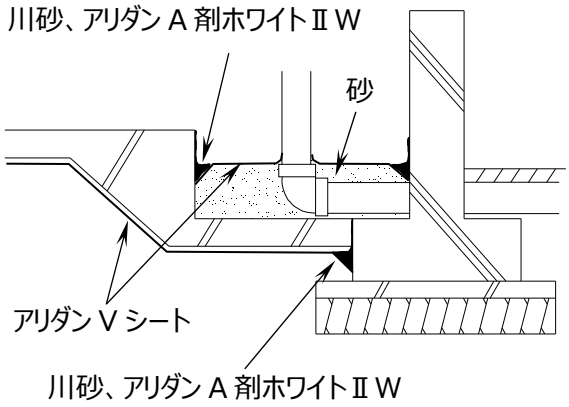
◇**配管ピット部のアリダン V シート敷設、およびアリダン A 剤ホワイトⅡW の注入**

・アリダン SV-P 工法を施工し、アリダン A 剤ホワイトⅡW 硬化後、コンクリートを打設します。
ただし配管周りには、コンクリートを打設しません。

〇配管ピット部にアリダン V シートを使用する場合

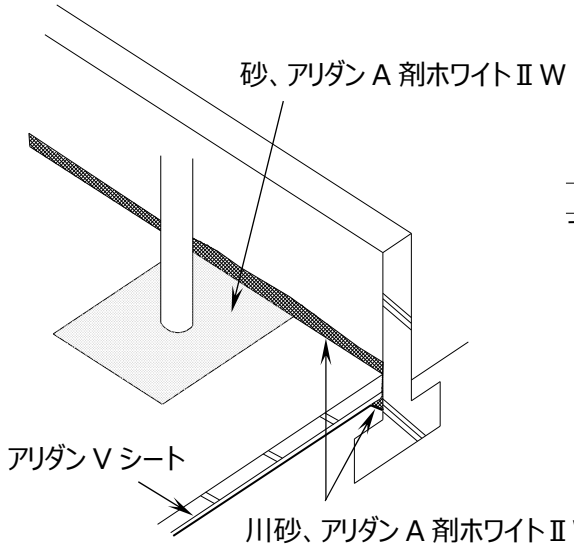
・配管ピット部の配管に配管処理用のカットシートを差し込み、シート端部に川砂を盛り、アリダン A 剤ホワイトⅡW を注入する。（注入量：200ml 以上/m）

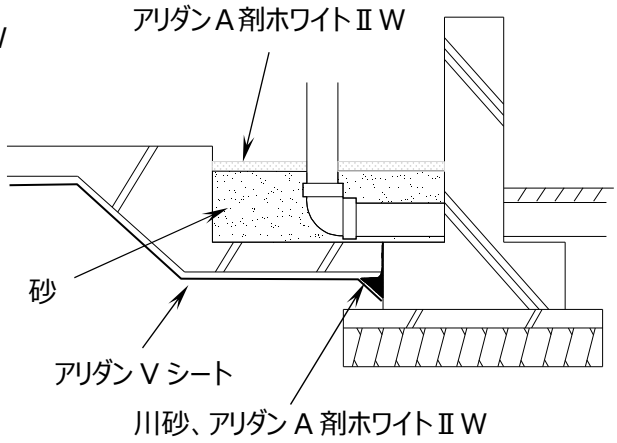




〇配管ピット部にアリダン V シートを使用しない場合

・配管ピット部の砂部全面にアリダン A 剤ホワイトⅡW を注入する。（注入量：1.5L 以上/㎡）





◇**．清掃**

・アリダン V シート、アリダン GA ジョイント V の端切れ、アリダン A 剤ホワイトⅡW の容器は持ち帰り、
産業廃棄物として専門の産業廃棄物処理業者に委託します。

■木部の防腐・防蟻処理について

●木部の防腐・防蟻処理の施工概要

※木部防腐・防蟻処理は（公社）日本しろあり対策協会の認定する防除士の責任と指導のもとに行います。
※使用する木部処理剤は、（公社）日本しろあり対策協会、または（公社）日本木材保存協会に認定された認定品とします。

木部の防腐・防蟻処理の標準施工は下記の通りとします。

1. 塗布または吹き付けに使用する薬剤の量は、木材の表面積１㎡あたり 300ml 以上とし、処理ムラが生じないように 2 回以上の処理します。
2. 床下の木部については全面に処理します。（土台については不要です）

※ただし、上框部のブロック基礎上の土台については加圧注入材であっても、再度処理を施します。
※大引についても加圧注入処理が施されている場合は、床下の木部は不要です。
（床上立ち上がり木部のみ処理します）

●処理方法

木部の防腐・防蟻処理は以下の箇所に行います。

1. 外壁部分は地面から高さ 1m 以内の木部（軸組、ポーチ柱、バルコニー柱、間柱、窓台、窓まぐさ、構造用合板、構造用パネル）に処理を行います。ただし、化粧柱、真壁の室内見えがかり部は除きます。
2. 木材の木口、割れ、欠き込み、ほぞ孔、ボルト孔、仕口、継手、接合部建築金物の取り付け部分、木材と基礎が接する部分、および浴室、トイレ、洗面所、台所等の水廻り部分の木材については特に入念に処理します。
3. 浴室部においては上記外壁部分、および内部間仕切り壁の地面から 1m 以内の壁合板等にも処理を行います。
4. 在来浴室においては、上記軸組（柱・間柱、筋違い）、ラス板（ラスカット除く）、内部胴縁は天井野縁面までの内面に処理します。
5. トイレ、洗面所（ユーティリティー含む）、台所等水がかりの恐れのある部分の床下地材および内部間仕切壁部分、筋違いは地面からの高さ 1m まで処理します。
6. 隅通柱材は、土台部から軒桁部まで全面に処理をします。ただし、米松集成材を使用した場合は、地面から高さ 1m 以内の箇所に処理を施します。処理方法については事前に加盟店工務担当者に確認をしてください。